

特定非営利活動法人
トリトン・アーツ・ネットワーク

2008 年度事業報告書

2009 年 7 月

ご挨拶

皆さまのご支援のお陰でトリトン・アーツ・ネットワーク（TAN）は2001年4月にNPO法人として活動を開始して8年が経過いたしました。TANの2008年4月から2009年3月までの1年間の活動記録を本事業報告書にまとめましたので、ご高覧いただけましたら幸いです。

TANはクラシック音楽を『広める』『創る』『育てる』を事業目的に、第一生命ホールを舞台とした「芸術活動」と中央区を中心とした「コミュニティ活動」を2本の柱として活動しております。

2008年度の第一生命ホールでの「創る」自主企画公演は、「ライフサイクルコンサート」「クアルテット・ウィークエンド」を始め26公演を実施いたしました。「ライフサイクルコンサート」では前々年度から開始した「クラシックはじめのいっぽ」を8回開催に増やしクラシック音楽ファンを「広める」ことができました。またクアルテットシリーズは、皆さまにホールに足を運んでいただきやすい週末開催に変更いたしました。

次に「コミュニティ活動」は、学校・病院・福祉施設等へのアウトリーチ活動を29回実施し、「広める」「育てる」活動を定着してきました。

TANの活動を評価していただく評価事業は、TAN設立2年目より継続して実施しており、2008年度で7年目となり、評価委員会の委員も第3期メンバーに交代となりました。皆さまからもTANの活動に対して忌憚のないご意見・ご助言をいただければ大変ありがたく存じます。

またこの場をお借りしましてTANの活動を支えていただいている「法人会員」と「個人会員」「協賛会社」の皆さまおよび「サポーター」の皆さまには、昨今の大変厳しい環境下にもかかわらず、暖かいご支援、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

来る2011年度のTAN10周年に向けて、これからも地域に根ざした活動を継続し、多くの皆さまに喜んでいただける音楽を提供していきたいと存じます。今後も引続き皆さまのご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク
理事長 加茂文治

目 次

I. ディレクターご挨拶	・・・ 4 ページ
II. 法人会員・協賛企業からのメッセージ	・・・ 5 ページ
J Pモルガン証券株式会社	
住友商事株式会社	
第一生命保険相互会社	
III. 2008年度の事業の成果	・・・ 7 ページ
1. 自主企画事業	・・・ 8 ページ
(1) ライフサイクルコンサート	
(2) クァルテット・ウィークエンド	
(3) クリスマスコンサート&アドヴェントセミナー	
(4) 共催公演	
2. コミュニティ事業	・・・ 24 ページ
(1) アウトリーチ	
(2) サテライト	
(3) ワークショップ	
(4) ロビーコンサート	
(5) レクチャーコンサート	
(6) その他	
3. 文化ボランティア拠点づくり事業	・・・ 27 ページ
(1) サポーター活動への参加条件	
(2) サポーター活動の種類	
(3) 2008年度に行った活動	
(4) 文化庁委託文化ボランティア支援拠点形成事業	
4. 評価事業	・・・ 29 ページ
5. 1～4に関わる別表	・・・ 30 ページ
IV. 運営に関する事項	・・・ 34 ページ
V. コンサート・アウトリーチの紹介	・・・ 35 ページ
1. 自主企画公演	
2. アウトリーチプログラム	
VI. 取材記録・掲載された主な記事	・・・ 48 ページ

VII. トリトン・アーツ・ネットワークからの情報発信	・・・50ページ
VIII. 収支報告	・・・51ページ
IX. 個人会員・法人会員・協賛金・助成金・認定	・・・52ページ
X. 理事・職員・評価委員	・・・55ページ
XI. 特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク定款	・・・56ページ

I ディレクターご挨拶

皆さまのおかげで充実した活動ができたことに感謝申し上げつつ、2008年度の事業報告書をお届けします。

私は昨年11月にトリトン・アーツ・ネットワークにまいりました。たった半年ですが、トリトン・アーツ・ネットワークの活動について日々強い感銘を受けています。

数年前、イギリスの劇場に1年間滞在し、ホールの運営や教育普及プログラムについて学ぶ機会を得ました。イギリスでは、大抵どの劇場や芸術団体も教育プログラム担当部署と専門のマネージャーが設置されています。子供向け、先生向け、あるいは高齢者向けなど、すでに完成した教育プログラムのパッケージを色々持っているので、数多くの教育プログラムが行われ、また新しい企画も次々と生まれていました。20世紀後半から国をあげて教育プログラムに力を入れてきたイギリスでは、芸術団体による教育プログラムは、まるで企業が社会貢献活動を行うように当たり前に行われていたので、「なぜ教育プログラムを実施するのか」という議論の段階はすでに通りすぎているようでした。

しかし日本では、ここ数年で教育プログラムに対する理解が急速に高まり、各地で色々な取り組みが行われてはいるものの、未だに「子供のための教育普及プログラムは、結局は未来の観客づくり」「収入が見込めないのだから、実際に顧客数が増えなければやる意味がない」といった議論が聞かれることもあります。

そのような中、トリトン・アーツ・ネットワークは、8年前の創設時から、ホール事業と同じ比重をかけて、コミュニティ活動に取り組んでまいりました。「観客を増やして利益を上げる」ことではなく、「クラシック音楽を『創る』『広める』『育てる』」をミッションにしているNPOですから、実行に迷いがないのです。

皆さまからいただくご支援によって、2008年度も音楽を必要としながらホールに来られない方々とのたくさんの出会いがありました。

病院の小児科病棟で、自分のギターでプロのアーティストたちと一緒に演奏してはにかむ長期入院中の少年。

いつもの音楽室で、目の前で演奏される迫力あるピアノの音に圧倒されて、口を開けて聴いている小学生。

特別養護老人ホームで、なつかしい歌に思わず口ずさみながら涙ぐむお年寄り。

ホールでのコンサート事業と違って、基本的にチケット収入がないコミュニティ事業は、法人会員、個人会員、サポーター、その他トリトン・アーツ・ネットワークに関わってくださっているすべての皆さまのご理解とご支援がなくては成り立ちません。多くの方々に、少しずつでも音楽を通してのかけがえのない体験をお届けできるような活動をこれからも続けていきたいと思えます。また併せて、トリトン・アーツ・ネットワーク及び第一生命ホール10周年に向けて変貌をとげていくホール事業にもぜひご期待ください。

引き続き、皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

ディレクター 田中玲子

II 法人会員・協賛企業からのメッセージ

JP モルガン証券株式会社

JP モルガンの社会貢献は、コミュニティへの支援、教育支援、文化・アートの普及、の3分野に注力しています。かかる分野で質の高い活動をされているトリトン・アーツ・ネットワークを、数年来支援してまいりました。

2008年度も、第一生命ホールを舞台とした「芸術活動」と同ホールのある東京都中央区を中心とした「コミュニティ活動」の双方において、確かな成果を挙げられたとお伺いしています。学校や病院、介護施設等にアーティストが出向いて音楽を楽しむ機会を提供する「アウトリーチ」の精神は、当社の注力分野の1つ「コミュニティ支援」のそれに合致するものです。こうした活動を継続しておこなっておられる関係諸氏の御努力に、心より敬意の念を表します。

トリトン・アーツ・ネットワークの今後のさらなる御発展を、JP モルガン社員一同こころより祈念いたします。

JP モルガン証券株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
グレゴリー・ガイエット

住友商事株式会社

住友商事は、2001年設立当初からトリトン・アーツ・ネットワークの事業活動に協賛させて頂いております。トリトン・アーツ・ネットワークは、第一生命ホールを舞台とした、多種多様なアーティストによるオープンな「芸術活動」を、また晴海アイランドトリトンスクエアと近隣地域の架け橋になるべく地域コミュニティやサポーターとの関係づくりを通じたアウトリーチ等の活動を積極的に行っておられます。

毎年新たな企画を通じて多くの人々に音楽により親しむ機会を提供され、大きな成果をあげていらっしゃるトリトン・アーツ・ネットワークの活動は大変素晴らしいことと存じます。

住友商事グループは経営理念に、健全な事業活動を通じての「豊かさと夢の実現」を謳い、行動指針のひとつに「良き企業市民として社会に貢献する」ことを掲げ、社会貢献活動や文化支援活動を推進しております。

住友商事は、地域の文化・芸術がますます発展することを願うと共に、トリトン・アーツ・ネットワークが更なる発展をとげられますよう、地域の一員として心からお祈り申し上げます。

財務部

第一生命保険相互会社

第一生命保険相互会社は、「良き企業市民」として健全な社会の発展に貢献することを目指し、芸術支援、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、「第一生命ホール」を拠点に自主企画公演を担うトリトン・アーツ・ネットワークの活動に、2001年の設立時より支援しております。

トリトン・アーツ・ネットワークは設立以来、「芸術活動」と、地域住民へ良質な音楽を提供する「コミュニティ活動」を大きな柱として積極的な活動を行ってこられました。

「芸術活動」では、ミッションの1つである「クラシック音楽を広める」を柱として、第一生命ホールを拠点に良質な音楽を楽しんでいただくための多彩なコンサートや催し物を企画されております。

芸術性に重点を置いた「弦楽四重奏」や人生における様々な場面に応じて音楽に出会う機会を提供していくための「ライフサイクルコンサート」など、芸術性の高さを維持しつつクラシックファンの裾野を着実に広げられています。

「コミュニティ活動」では、学校・病院・福祉施設等、音楽を必要としながらもホールに足を運べない人々に対して質の高い生演奏をお届けする「アウトリーチ」という形で幅広く音楽芸術の浸透を図っておられます。

これらの活動を通して多くの方々から支持を得られていることは、協賛する私どもにとりましても大変喜ばしいことでございます。

第一生命といたしましても、音楽芸術の更なる発展のために、今後もより一層の支援活動を続けて参ります。

最後になりますが、10周年に向けてトリトン・アーツ・ネットワークの更なるご発展をお祈り申し上げます。

C S R推進室 君島由子

Ⅲ 2008 年度の事業の成果

2008 年度もトリトン・アーツ・ネットワークのミッション「クラシック音楽を『広める』『創る』『育てる』」に基づき、事業を行った。

第一生命ホールで行う**ホール事業**では、主催公演としてこれまでで一番回数の多い 26 公演を行った。中でも「ライフサイクルコンサート」は 12 公演と回数を増やし、クアルテット・ウィークエンド (SQW) の 13 公演と、初めてその数が拮抗する形となった。

「ライフサイクルコンサート」では、人生における様々な場面 (ライフサイクル) に応じたコンサートを、的を絞ったターゲットに提供するものであるが、工夫を凝らした公演を「創る」のみならず「広める」ミッションの柱として定着してきている。

一方、トリトン・アーツ・ネットワーク創設以来、芸術性に重点を置き、ミッション「創る」の核となっている SQW は、リニューアルをして新たなスタートを切った。

また特別コンサートとして行ったクリスマスコンサートは、「育てる」ミッションを担うアドヴェントセミナーの成果発表の場であり、今年度も 17 名の若い演奏家が受講生として参加した。

コミュニティ事業では、数や訪問先が定着し、継続的な活動を行っている。新規の開催地として江東区豊洲地区のマンションでのコンサートが実現した他、第一生命のマッチングギフトと連携したコンサートを千葉県と神奈川県で行い、トリトン・アーツ・ネットワークの定款にある活動の対象地域が「東京都中央区晴海、月島、佃、勝どき地区および首都圏地域の人々」から広がりを見せたことにより、今後の活動を見据えて定款を「東京都中央区晴海、月島、佃、勝どき地区を主とした地域の人々」に変更する予定である。また文化庁委託文化ボランティア支援拠点形成事業として「アウトリーチコーディネーター講座」を開催し、受講生がコーディネーターとして参加した 5 事業を行い、また参加者から新たにサポーターとして 6 名の登録があった。

サポーター事業では、オープンハウスや育児支援コンサートのスタジオ運営において引き続きサポーターが中心になってイベントを盛り上げるなど、通常の補助的なボランティアだけではない活発な活動を行っている。また活動を紹介するサポーターハンドブックの編さんも初めて行われ、2009 年度の最初のミーティングで配布された。

評価事業としては、新たに第 3 期の評価委員会が組織され、2008 年度中にすべての委員によりホール事業とコミュニティ事業の視察があった。今年度から評価の結果を今後の運営に生かし改善することになっている。

1. 自主企画公演事業

(1) ライフサイクルコンサート

人生における様々なステップに応じたコンサートを提供する「ライフサイクルコンサート」では、4つのシリーズ「クラシックはじめのいっぽ」「630コンサート」「ふたりでコンサート」「育児支援コンサート」で計12公演を行った。

「クラシックはじめのいっぽ」は、年8回と回数を増やし、定期公演化した。毎回一つの楽器にスポットをあて演奏家を選び、その楽器の持つ魅力が最もよく引き出されるようなプログラムで構成し、また演奏家が曲間でトークを行うことで客席と舞台との距離を縮め、クラシック入門者はもとより、演奏家のファンも十分に楽しめる内容となった。ヴァイオリン、チェロ、フルート、サクソ、ピアノ、アコーディオン、パーカッション、ソプラノと、弦楽器、管楽器、打楽器、歌の各分野からのバラエティに富んだシリーズとなった。

「630コンサート」は年2回の定例化となり、第一生命ホールが位置する晴海トリトンスクエア勤務者を対象として、各企業に声をかけオフィス勤務者に情報を伝える努力をした。ソロ・リサイタル中心である「はじめのいっぽ」との変化をつけるために、「630コンサート」では室内楽に重心を置き、1回目はサクソ四重奏、2回目はピアノ・トリオを行った。

「ふたりでコンサート」は、人気のソプラノ佐藤美枝子のネームバリューもあり完売した。ターゲットである団塊世代以上の夫婦に、オペラのアリアから映画音楽やミュージカルまで楽しんでいただけるプログラムとし、これまでのお客様からの要望も多かった、日本語訳詞の字幕を実現し、好評を得た。

「育児支援コンサート」は、未就学児を預かるスタジオが満員となったことにより今年度も売り止め完売となった。第1部のスタジオでは子供達が音楽を聴くばかりでなく、サポーターの協力のもと作った手作り楽器(ペットボトルの弦楽器、ストローのオーボエ)で、演奏への参加を楽しんだ。第2部は親子そろってホールで音楽を鑑賞し、スクリーンに映された絵本と舞台上の演奏を楽しむ「音楽と絵本」が定番となり好評であった。

〈ライフサイクルコンサート#26〉

2008年5月7日(水) 11:30 開演

◆クラシックはじめのいっぽ vol.5 ～ヴァイオリン&ピアノ～
堀米ゆず子(ヴァイオリン) 児玉桃(ピアノ)

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ変ロ長調 K.378

ベートーヴェン(クライスラー編)：ロンドリーノ

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第5番へ長調「春」 op.24 より第1楽章

クライスラー：中国の太鼓
メシアン：ヴァイオリンとピアノのための幻想曲
ファリャ（クライスラー編）：スペイン舞曲

一般¥1,500 ペア券¥2,000 セット券（シリーズより
2公演）¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社
※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業



©大窪道治

〈ライフサイクルコンサート#27〉

2008年6月26日（木）11:30 開演

◆クラシックはじめのいっぽ vol.6 ～パーカッション～
加藤訓子（パーカッション）

デビッド・ラング：アンビル・コーラス

加藤訓子：ルーツ・オブ・マ・リンバ

ルーツ・オブ・マ・リンバⅠ－Fairy of marimba

沖縄民謡（加藤訓子編）－ていんさぐぬ花

ルーツ・オブ・マ・リンバⅡ－asia

杉山洋一：Regalo

シューマン：トロイメライ（加藤訓子編）

ルーツ・オブ・マ・リンバⅢ－Mama's marimba

マーク・ダガン：Shona Dream Dances

ドボルジャーク：新世界より「家路」（加藤訓子編）

フレデリック・ジェフスキ：To the Earth



©大窪道治

一般¥1,500 ペア券¥2,000 セット券（シリーズより2公演）¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社 ※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#28〉

2008年7月31日（木）11:30 開演

◆クラシックはじめのいっぽ vol.7 ～ソプラノ～
幸田浩子（ソプラノ） 田島亘祥（ピアノ）

ヘンデル：オンブラ・マイ・フ

バッハ＝グノー：アヴェ・マリア

モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より「恋人よ、さあこの薬で」（ツェルリーナ）

モーツァルト：歌劇「魔笛」より「復讐の心は地獄のように」（夜の女王）

デラックア：ヴィラネル
マスネ：アヴェ・マリア
バーンスタイン：キャンディードより “きらびやかに
着飾って”



©大窪道治

一般¥1,500 ペア券¥2,000 セット券（シリーズより
2公演） ¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社

※平成 20 年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#29〉

2008年9月11日（木）11:30 開演

◆クラシックはじめのいっぽ vol.8 ～フルート～

工藤重典（フルート） 成田有花（ピアノ）

テレマン：ソナタ へ短調
ヘンデル：オペラ「クセルクセス」よりラルゴ
アリアビエフ：うぐいす
グルック：オペラ「オルフェオ」より精霊の踊り
ショパン：小犬のワルツ
ビゼー：「アルルの女」第2組曲よりメヌエット
バッチーニ：妖精の踊り
クロード・ボリング：ヴェローチェ
ドップラー：ハンガリー田園幻想曲

一般¥1,500 ペア券¥2,000 セット券（シリーズより 2公演） ¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社 ※平成 20 年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#30〉

2008年10月30日（木）18:30 開演

◆630コンサート ～充電の1時間～

トルヴェール・クワルテット

須川展也（ソプラノサクソフォン） 彦坂眞一郎（アルトサクソフォン）

新井靖志（テナーサクソフォン） 田中靖人（バリトンサクソフォン）

小柳美奈子（ピアノ）

ロジャース（真島俊夫編曲）：マイ・フェイヴァリット・シングス
シャーウィン（彦坂眞一郎編曲）：パークレースクエアのナイチンゲール

デザンクロ：サクソフォン四重奏曲より第3楽章
ピアソラ：ミケランジェロ
ピアソラ：「ブエノスアイレスの四季」より「夏」・「冬」
ビゼー／長生淳：カルメンラプソディ
一般¥1,500、トリトンポイントカード会員¥1,300
※協賛：第一生命保険相互会社
※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業



©大窪道治

〈ライフサイクルコンサート#31〉

2008年11月12日（水）11:30 開演

◆クラシックはじめのいっぽ vol.9 ～チェロ～
向山佳絵子（チェロ） 林 絵里（ピアノ）

エルガー：愛のあいさつ
ブルッフ：コル・ニドライ
ブロッホ：祈り
バルトーク：ルーマニア舞曲
ファリャ：スペイン舞曲
グラズノフ：2つの小品 op.20 から「スペインのセレナード」
サン＝サーンス：白鳥
ヴィラ＝ロボス：黒い白鳥の歌
ドヴォルザーク：森の静けさ
パガニーニ：モーゼ幻想曲



©大窪道治

一般¥1,500、ペア券¥2,000、セット券（vol.9と10の2公演）¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社 ※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#32〉

2008年12月4日（木）11:30 開演

◆クラシックはじめのいっぽ vol.10 ～サクソス～
平野公崇（サクソフォン） 山口研生（ピアノ）

ラフマニノフ：ヴォカリーズ
ヴィラ＝ロボス：シンフォニア
ダマーズ：バカンス
J. S. バッハ（平野公崇編曲）：コラール プレリユード BWV659/
G線上のアリア／

主よ人の望みの喜びよ／

ゴールドベルク変奏曲 BWV988 より第 26 変奏、第 19 変奏、第 7 変奏、第 30 変奏

一般 ¥1,500 ペア券 ¥2,000 セット券 (vol.9 と 10 の 2 公演) ¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社

※平成 20 年度文化庁芸術拠点形成事業



©大窪道治

〈ライフサイクルコンサート#33〉

2008 年 12 月 7 日 (日) 15:00 開演

◆ふたりでコンサートⅤ オペラの楽しみ

佐藤 美枝子 (ソプラノ) 郡 愛子 (メゾ・ソプラノ) 川久保 博史 (テノール)

谷 友博 (バリトン) 松本 康子 (ピアノ)

第 1 部 珠玉のオペラアリア

ロッシーニ：歌劇「セヴィリアの理髪師」より「私は街の何でも屋」

ビゼー：歌劇「カルメン」より「ハバネラ」

プッチーニ：歌劇「トスカ」より「星は光りぬ」

ベッリーニ：歌劇「清教徒」より「あなたの優しい声が」

プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」より「もう帰らないミミ」(二重唱)

サン＝サーンス：歌劇「サムソンとデリラ」より「あなたの声に心は開く」

ヴェルディ：歌劇「ドン・カルロ」より「私は死ぬ」

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より「愛こそ心の太陽～さようなら」(二重唱)

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より「慕わしき人の名は」

第 2 部 あなたと魅惑のひとときを……

ガーシュイン：「ポーギーとベス」より「サマータイム」

ニューマン：「慕情」より「恋ははかなく、恋はすばらしきもの」

ブロズキー：「ニューオリンズの美女」より「ビー・マイ・ラブ」

スコットランド民謡：アメージング・グレース

ララ：グラナダ

ロウ：「マイ・フェア・レディ」より「踊り明かそう」

デ・クルティス：忘れな草

タリアフェッリ／ヴァレンテ：情熱

ペア ¥5,000 一般 ¥3,000 学生 (限定) ¥1,000 エスコート割引 ¥4,000 当日後半割引 ¥1,500 (第 1 部開演後から空席がある場合のみ販売。一般席のみ。第 2 部からのご入場)

※協賛：第一生命保険相互会社 ※平成 20 年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#34〉

2009年1月14日(水) 11:30 開演

◆クラシックはじめのいつぽ vol.11 ～アコーディオン～

御喜美江 (アコーディオン)

スカルラッティ：ソナタハ長調 K.159／ソナタニ短調 K.9

J.S.バッハ：「アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽帖」より

ミュゼット／ポロネーズ／メヌエット／メヌエット／メヌエット／マーチ

「フランス組曲第5番ト長調 BWV816」より

フィリップ・グラス：モダン・ラブ・ワルツ

アンドレ・アスティエ：ミス・カーティング (ミュゼット・ワルツ)

ミシェル・ルグラン：シェルブールの雨傘

アストル・ピアソラ：S.V.P.／バチンの少年／白い自転車

ジョン・ゾーン「ロード・ランナー」アコーディオン・ソロのための



©大窪道治

一般¥1,500 ペア券¥2,000 セット券 (vol.11 と 12 の 2 公演) ¥2,000

※協賛：アメリカンファミリー生命保険会社 ※平成 20 年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#35〉

2009年2月12日(木) 18:30 開演

◆630コンサート ～充電の1時間～ ピアノトリオの楽しみ

小林美恵 (ヴァイオリン) 長谷川陽子 (チェロ) 仲道祐子(ピアノ)

ハイドン：ピアノ三重奏曲第39番ト長調 op.73-2Hob.XV-25 より第3楽章

クライスラー：ウィーン奇想曲 op.2／愛の喜び

サン＝サーンス：白鳥

ピアソラ：リベルタンゴ

シベリウス：ロマンス op.101-1

リスト：愛の夢 第3番

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲第1番ニ短調

op.49



©大窪道治

一般¥1,500、トリトンポイントカード会員¥1,300

※協賛：第一生命保険相互会社 ※平成 20 年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#36〉

2009年3月12日(木) 11:30 開演

◆クラシック はじめのいっぽ vol.12 ピアノ編

小川典子 (ピアノ)

モーツァルト:「ああ、お母さん聞いて」による 12 の変奏 (きらきら星変奏曲) K.265

ドビュッシー:ベルガマスク組曲より「月の光」/前奏曲集第1巻より「沈める寺」

滝廉太郎: 憾み

武満徹: 雨の樹 素描

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第8番ハ短調「悲愴」

リスト: ラ・カンパネラ



©大窪道治

一般¥1,500 ペア券¥2,000 セット券 (vol.11 と 12 の2公演) ¥2,000

※協賛: アメリカンファミリー生命保険会社

※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業

〈ライフサイクルコンサート#37〉

2009年3月29日(日) 15:00

◆育児支援コンサート 子どもを連れてクラシックコンサート

クァルテット・エクセルシオ (弦楽四重奏)

小坂圭太 (ピアノ) 古部賢一 (オーボエ) 飯原道代 (朗読)

第1部

《子どものための音楽スタジオ》(幼児対象)

年齢別に分かれて行う弦楽器と管楽器による楽しい音楽体験



©大窪道治

《大人のためのコンサート》(小学生以上)

〜ヴァイオリンとピアノによる名曲のひと時〜

エルガー: 愛の挨拶

ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第5番ヘ長調 op.24 「春」より第1楽章

シューマン: 「子どものためのアルバム」 op.68 より「勇敢な騎士」「楽しき農夫」

ショスタコーヴィチ: 「子供のノート」 op.69 より「楽しいおはなし」「誕生日」「マーチ」

シューマン: 「子どもの情景」 op.15 より「トロイメライ」

モンティ: チャールダッシュ

第2部

《みんな一緒にコンサート》

モーツァルト：ディヴェルティメント変ロ長調 K.137 より第2楽章

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番へ長調 op.96「アメリカ」より第4楽章

音楽と絵本／「くものすおやぶんとりものちょう」（作：秋山あゆ子／福音館書店出版）

大人 ¥2,000（中学生以上） 子ども ¥1,000（4歳以上）

※協賛：第一生命保険相互会社

※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業

※協力：株式会社 福音館書店、ESSC（エスク）



©大窪道治

(2) クアルテット・ウィークエンド

第一生命ホールオープン以来続けてきた弦楽四重奏のシリーズを、2008年度は全面的にリニューアルした。

まず曜日を水曜日から、集客しやすいと思われる週末へ移し、シリーズ名をクアルテット・ウェンズデイからクアルテット・ウィークエンドに変更した。（愛称である略称 SQW は偶然にも同じになった。）

さらに、海外からのアーティストがキュレーター・クアルテットとなり短期間に集中的に公演を行う「フェスタ」と、日本のクアルテットが定期的に公演を行う秋からのシーズン「ガレリア」の2つに分けた。

「フェスタ」のキュレーター・クアルテットであるボロメオ・ストリング・クアルテットは、「四重奏万華鏡—弦楽四重奏の250年」というテーマで、6日間にわたるプログラムを組んだ。全15曲で編まれたプログラムの中には、ハイドン、ベートーヴェン、バルトーク、ショスタコーヴィチといった弦楽四重奏史上主要な作曲家の作品が並び、クアルテット・エクセルシオの共演で、弦楽四重奏曲のみならず、弦楽五重奏曲、弦楽六重奏曲、弦楽八重奏曲までが組み込まれ、またヴァイオリンのニコラス・キッチンによるトークを入れたり、バルトーク自筆譜を演奏に合わせてスクリーンに投影しながら演奏したりと、弦楽四重奏のフェスタ（祭）にふさわしい試みがあった。

「ガレリア」では「極める3題—ベートーヴェンを極める、ハイドンを極める、20世紀を極める」をテーマとした。古典四重奏団とプレアデス・ストリング・クアルテットがそれぞれベートーヴェンの全曲に取り組み、エルデーディ弦楽四重奏団がハイドン没後200年を記念して2回（内1回は2009年度）に分けて「弦楽四重奏の父」ハイドンの作品を取り上げた。クアルテット・エクセルシオは実験的な「ラボ・エクセルシオ 20世紀・日本と世界」として、間宮芳生とウェーベルン作品に挑戦、開演前には間宮芳生自身によるプレトークも実施した。

〈クァルテット・ウィークエンド 08-09 フェスタ〉

〈フェスタ第1日 #66〉

2008年5月30日(金) 19:15 開演

◆ウィーン、1800年の胎動

ボロメーオ・ストリング・クァルテット

ニコラス・キッチン／クリストファー・タン (ヴァイオリン)

元渕舞 (ヴィオラ) イーサン・キム (チェロ)

ゲスト：吉田有紀子 (ヴィオラ：クァルテット・エクセルシオ)

ハイドン：弦楽四重奏曲第79番ニ長調 op.76-5 Hob.
III-79「ラルゴ」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第3番ニ長調 op.18-3、
モーツァルト：弦楽五重奏曲第4番ト短調 K.516 [+
吉田有紀子 (ヴィオラ)]



©大窪道治

〈フェスタ第2日 #67〉

2008年5月31日(土) 18:00 開演

◆死をめぐる断章

ボロメーオ・ストリング・クァルテット

ニコラス・キッチン／クリストファー・タン (ヴァイオリン)

元渕舞 (ヴィオラ) イーサン・キム (チェロ)

バルトーク：弦楽四重奏曲第6番 Sz.114

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第15番イ短調 op.132

〈フェスタ第3日 #68〉

2008年6月1日(日) 18:00 開演

◆ときめきと憧憬

ボロメーオ・ストリング・クァルテット

ニコラス・キッチン／クリストファー・タン (ヴァイオリン)

元渕舞 (ヴィオラ) イーサン・キム (チェロ)

クァルテット・エクセルシオ

西野ゆか／山田百子 (ヴァイオリン) 吉田有紀子 (ヴィオラ) 大友肇 (チェロ)

ハウエルズ：ファンタジー [演奏：クァルテット・エクセルシオ]

バルトーク：弦楽四重奏曲第1番 op.7 Sz.40、

チャイコフスキー：弦楽六重奏曲ニ短調 op.70「フィレンツェの思い出」 [+吉田有紀子 (ヴィオラ)、大友肇 (チェロ)]

〈フェスタ第4日 #69〉

2008年6月5日(木) 19:15 開演

◆コンサート・プラス～自死者は詠う

ボロメーオ・ストリング・クアルテット

ニコラス・キッチン／クリストファー・タン (ヴァイオリン)

元渕舞 (ヴィオラ) イーサン・キム (チェロ)

ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲第8番ハ短調 op.110

ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲第12番変ニ長調 op.133

※第1ヴァイオリン奏者ニコラス・キッチンによるレクチャー付

〈フェスタ第5日 #70〉

2008年6月6日(金) 19:15 開演

◆コンサート・プラス～対位法、制御不能！

ボロメーオ・ストリング・クアルテット

ニコラス・キッチン／クリストファー・タン (ヴァイオリン)

元渕舞 (ヴィオラ) イーサン・キム (チェロ)

バルトーク：弦楽四重奏曲第5番 Sz.102

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番変ロ長調 op.130 (大フーガ 変ロ長調 op.133 付)

※アメリカ議会図書館 (Library of Congress) とボロメーオ・ストリング・クアルテットが共同開発した SimulCast を使って、スコア (総譜) などを投影しつつ演奏を同時進行

〈フェスタ第6日 #71〉

2008年6月8日(日) 15:00 開演

◆昼下がりの19世紀

ボロメーオ・ストリング・クアルテット

ニコラス・キッチン／クリストファー・タン (ヴァイオリン)

元渕舞 (ヴィオラ) イーサン・キム (チェロ)

クアルテット・エクセルシオ

西野ゆか／山田百子 (ヴァイオリン) 吉田有紀子

(ヴィオラ) 大友肇 (チェロ)

シューベルト：弦楽四重奏曲第12番ハ短調 D.703 「四重奏断章」 [演奏：クアルテット・エクセルシオ]



©大窪道治

シューマン：弦楽四重奏曲第1番イ短調 op.41-1

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲変ホ長調 op.20 [+クアルテット・エクセルシオ]

〈クアルテット・ウィークエンド 08-09 ガレリア〉

テーマ：極める3題

ベートーヴェンを極める、ハイドンを極める、20世紀を極める

〈#72〉2008年9月15日(月・祝) 15:00 開演

◆プレアデス・ストリング・クアルテット

～ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会IV～

プレアデス・ストリング・クアルテット

松原勝也/鈴木理恵子(ヴァイオリン) 川崎和憲(ヴィオラ) 山崎伸子(チェロ)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番へ長調 op.59-1 「ラズモフスキー第1番」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番変ロ長調 op.130、大フーガ変ロ長調 op.133

〈#73〉2008年10月3日(金) 19:15 開演

◆古典四重奏団

～ベートーヴェン・ツィクルス vol.1-1～

古典四重奏団

川原千真(第1ヴァイオリン)/花崎淳生(第2ヴァイオリン)

三輪真樹(ヴィオラ) 田崎瑞博(チェロ)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第2番ト長調 op.18-2

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第1番へ長調 op.18-1

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第3番ニ長調 op.18-3



©大窪道治

〈#74〉2008年10月19日(日) 15:00 開演

◆古典四重奏団

～ベートーヴェン・ツィクルス vol.1-2～

古典四重奏団

川原千真(第1ヴァイオリン)/花崎淳生(第2ヴァイオリン)

三輪真樹(ヴィオラ) 田崎瑞博(チェロ)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第6番変ロ長調 op.18-6

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第5番イ長調 op.18-5

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第4番ハ短調 op.18-4

〈#75〉 2008年11月3日（月・祝）15:00 開演

◆古典四重奏団

～ベートーヴェン・ツィクルス vol.1-3～

古典四重奏団

川原千真(第1 ヴァイオリン)/花崎淳生 (第2 ヴァイオリン)

三輪真樹 (ヴィオラ) 田崎瑞博 (チェロ)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番ヘ長調 op.59-1 「ラズモフスキー第1番」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第8番ホ短調 op.59-2 「ラズモフスキー第2番」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第9番ハ長調 op.59-3 「ラズモフスキー第3番」

〈#76〉

2009年1月31日（土）18:00 開演

◆クアルテット・エクセルシオ

ラボ・エクセルシオ 20世紀・日本と世界 II

クアルテット・エクセルシオ

西野ゆか/山田百子 (ヴァイオリン) 吉田有紀子 (ヴィオラ) 大友肇 (チェロ)

間宮芳生：弦楽四重奏曲第1番(1963)

間宮芳生：弦楽四重奏曲第2番「いのちみな調和の海より」(1980)

ウェーベルン：弦楽四重奏曲 (1905)

ウェーベルン：弦楽四重奏のための5つの楽章 op.5

ウェーベルン：弦楽四重奏のための6つのバガテル op.9

ウェーベルン：弦楽四重奏曲 op.28

※間宮芳生によるプレトーク 17:00～17:30

〈#77〉 2009年2月22日（日）15:00 開演

◆エルデーディ弦楽四重奏団

ハイドン没後200年を記念して I

エルデーディ弦楽四重奏団

蒲生克郷/花崎淳生 (ヴァイオリン) 桐山建志 (ヴィオラ) 花崎薫 (チェロ)



©大窪道治

ハイドン：弦楽四重奏曲第72番ハ長調 op.74-1 Hob.III-72

ハイドン：弦楽四重奏曲第73番ヘ長調 op.74-2 Hob.III-73

ハイドン：弦楽四重奏曲第74番ト短調 op.74-3 Hob.III-74 「騎手」

〈#78〉 2009年3月22日(日) 15:00 開演

◆プレアデス・ストリング・クアルテット

～ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会 V～

プレアデス・ストリング・クアルテット

松原勝也／鈴木理恵子(ヴァイオリン) 川崎和憲(ヴィオラ) 山崎伸子(チェロ)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第4番ハ短調 op.18-4

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第10番変ホ長調 op.74 「ハーブ」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第14番嬰ハ短調 op.131

〈クアルテット・ウィークエンド共通〉

オールシーズン券(全14公演) ¥28,000

フェスタ券(5月～6月の6公演) ¥13,800

定期券(9月～4月の8公演) ¥18,400

回数券3(全14公演から3公演)(一般) ¥9,900、(シニア) ¥7,200

単独券(一般) ¥3,500、(シニア) ¥2,500、(ヤング) ¥1,500

*シニアは60歳以上、ヤングは小学生～25歳まで。

※フェスタ協賛：J.P.モルガン ※フェスタ後援：アメリカ大使館

※平成20年度文化庁芸術拠点形成事業

(3) クリスマスコンサート&アドヴェントセミナー

トリトン・アーツ・ネットワークのミッションのうち「育てる」の主要な部分を担う、若手演奏家向けセミナーである。楽器にもよるがオーディションへの申し込みも多く、昨年のセミナー経験者や、セミナー経験者からの勧めで応募する参加者も見られたことは、このセミナーに対する評価の表れと思われる。

オーディションによって選抜された受講生は、ヴァイオリン8名、ヴィオラ4名、チェロ3名、コントラバス2名の計17名。ロビーでの室内楽では、すべてのグループに講師が1人ずつ入った。ホールでは、受講生のみによる曲、松原勝也がコンサートマスターとして入った曲、講師全員が各パートのトップとして入った曲、計3曲の弦楽合奏と、講師のみによる弦楽四重奏が演奏された。



受講生のみによる曲(メンデルスゾーン)では、講師は見守るのみで、練習の進め方から自分たちで考えなくてはならない。しかも10日間という期間は、通常の演奏会のリハーサルとしてはかなり長い。今年も試行錯誤の末まとまったようだ。こういった経験が、これからキャリアを重ねる若い演奏家にとってかけがえのないものになるよう願っている。

また毎年、受講生のうち興味のある何人かは、TANのアウトリーチ活動に参加しても

らっている。今年も参加希望があり、こうした面からも演奏家のキャリアをバックアップしていかれたらと思っている。

スケジュール

2008年12月14日から12月24日

- 12月22日(月) 受講生と講師による室内楽ロビーコンサート
- 12月23日(火) 子どものための公開リハーサル
- 12月24日(水) クリスマスコンサート

〈特別コンサート〉

2008年12月24日(水) 19:15 開演

◆クリスマスコンサート 2008

松原勝也／鈴木理恵子(ヴァイオリン) 川崎和憲(ヴィオラ) 山崎伸子(チェロ)
アドヴェント弦楽合奏団

メンデルスゾーン：弦楽のためのシンフォニア第3番
ホ短調

グリーグ：組曲「ホルベアの時代より」op.40

バルトーク：弦楽四重奏曲第2番 op.17 Sz.67

チャイコフスキー：弦楽セレナードハ長調 op.48



©大窪道治

ペア ¥5,000 一般 ¥3,000 シニア ¥2,000

学生A ¥1,000 学生B ¥500

シニア：60歳以上 学生A：高校生・大学生・大学院生 学生B：小・中学生

※協賛：第一生命保険相互会社 ※後援：社団法人 日本演奏連盟

(4) 共催公演

共催公演は、邦楽、合唱、古楽など、主催公演で実施できていないジャンルで、ミッションの「広める」を担った活動を行っている。

当初は今年度の共催公演は、日本音楽集団による定期演奏会2回と「林光・東混 八月のまつり」の計3回の予定だったが、2008年1月10日に亡くなった作曲家、長澤勝俊の追悼演奏会が2009年1月9日に入った。日本の邦楽会を代表する多数の演奏家が発起人となり、日本音楽集団が旧第一生命ホールで第1回定期演奏会を行った際に作曲された長澤の代表作「子供のための組曲」などが演奏され、舞台、客席を埋めた多くの演奏家、観客が、日本の伝統音楽につきものの流派などの垣根を越えて共に、現代の邦楽界に多くの足跡を残した作曲家に思いを馳せる会となった。

日本音楽集団には、「Meet the 和楽器」と銘打ったプロジェクトで、中央区の小中学校で和楽器を紹介し、子どもたちに楽器を体験する機会を与え、コンサートを行うなど、コミ

ユニティ活動でも協力していただいている。11月の定期演奏会では、第一生命ホールオープン5周年記念に初演した「和楽劇・呑気布袋」を組曲にアレンジし再演した。

毎年原爆記念日に近い夏の日を選んで、作曲家、林光の「原爆小景」を歌う「林光・東混八月のまつり」は第24回にあたる2003年から第一生命ホールで継続しており、今年度は第29回目の開催となった。

〈TAN's Amici Concert〉

2008年5月21日(水) 19:00 開演

◆日本音楽集団第191回定期演奏会 《管・絃・打 響》

～大編成アンサンブルの魅力～

日本音楽集団

芝祐靖：^{ひなぶり}夷曲「^{さいりょうらく}西陵楽」

秋岸寛久：十七絃と邦楽器群のための協奏曲（委嘱初演）

十七絃独奏：宮越圭子

長澤勝俊：^{しゅりんきんれい}朱輪金鈴

三木稔：^{ほて}巨火

前売 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000（当日各500円増し）

ヤングシート：25歳以下の方にB、C席を割安料金で

主催：特定非営利活動法人 日本音楽集団 NPOトリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール

2008年8月8日(金) 19:00 開演

◆林光・東混 八月のまつり 29

林光(指揮) 鈴木大介(ギター) 東京混声合唱団 古賀満平(照明)

林光：原爆小景（1958/1971/2001 完結版）（原民喜:詩）

<水ヲ下サイ><日ノ暮レチカク><夜><永遠のみどり>

林光：フェデリコ、君の名前は歌だ（2006/2008 ギター版初演）（加藤直:詩）

林光編曲：日本抒情歌曲集より

中国地方の子守歌（日本民謡 山田耕筰:作曲）

城ヶ島の雨（北原白秋:詩 梁田貞:作曲）

ちんちん千鳥（北原白秋:詩 近衛秀麿:作曲）

叱られて（清水かつら:詩 弘田龍太郎:作曲）

野の羊（大木惇夫:詩 服部正:作曲）

曼珠沙華（北原白秋:詩 山田耕筰:作曲）

かやの木山の (北原白秋:詩 山田耕筰:作曲)

一般¥4,000 学生・シニア¥3,000 (全席自由) ※学生:大学生以下 シニア:60才以上
主催:(財)合唱音楽振興会 NPOトリトン・アーツ・ネットワーク/第一生命ホール

2008年11月15日(土) 14:00 開演

◆日本音楽集団第193回定期演奏会

“和・声”邦楽器と合唱の交響

日本音楽集団 河地良智(客演指揮) 羽山弘子(ソプラノ) 柳家三之助(語り)

東芝フィルハーモニー合唱団

三木稔:くるだんど~奄美の旋律による日本楽器と混声合唱のためのカンタータ~

三木稔:古代舞曲によるパラフレーズ

秋岸寛久・川崎絵都夫・福嶋頼秀共作:「呑気布袋」コンサート組曲(初演)

前売 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 (当日各500円増し)

ヤングシート:25歳以下の方にB、C席を割安料金で

主催:特定非営利活動法人 日本音楽集団 NPOトリトン・アーツ・ネットワーク/第一生命ホール

2009年1月9日(金) 19:00 開演

◆長澤勝俊追悼演奏会

沢井忠夫合奏団 正派合奏団 日本音楽集団 宮城合奏団 山本邦山尺八合奏団

他邦楽界有志

長澤勝俊:

飛弾によせる三つのバラード(正派合奏団・山本邦山尺八合奏団)

春の一日(日本音楽集団)

雪三態(沢井忠夫合奏団)

北国雪賦(宮城合奏団)

子どものための組曲(邦楽界有志)

全席指定¥4,000

主催:長澤勝俊追悼演奏会実行委員会

共催:NPOトリトン・アーツ・ネットワーク/第一生命ホール

2. コミュニティ事業

2008年度は、コミュニティ事業を「アウトリーチ」「サテライト」「ワークショップ」「ロビーコンサート」「レクチャーコンサート」「その他」の6つに分け活動を行った。基本となるアウトリーチ活動以外のコミュニティ活動も定着し、様々な形態で地域と関わりを持ちながらクラシック音楽を「広める」ことが出来た。

(1) アウトリーチ

トリトン・アーツ・ネットワークの基本理念である「音楽が広げる人間の輪」を実現すべく、文化サービスNPOとして、音楽を必要としながらホールに来られない人々に質の高い生演奏を届けることで、演奏家と地域双方のニーズを結び付けることがアウトリーチ活動の理念である。

活動地域は、東京都中央区の晴海、月島、佃、勝どき地区を主とし、主に教育施設、高齢者・福祉施設、医療機関に対し実施している。

次に、プロジェクトとして実施したアウトリーチについて説明する。



① 4年生はじめてのクラシック（中央区文化・国際交流振興協会助成）

東京都中央区立の小学校にて特に4年生を対象に音楽室で実施した。アーティストや内容は各学校の音楽教諭と話し合い、より学校の特性に合った形で音楽を提供することを目的としている。

② Meet the 和楽器（日本財団助成）

毎年第一生命ホールにて定期演奏会を行い、コミュニティ活動にも積極的に関わっている日本音楽集団との共同プロジェクト「Meet the 和楽器」を実施した。

3年目となる今年度はより学校教育に沿う形で行えるよう箏の体験をメインとしたモデルケースを実施した。楽器の体験と音楽を聴くことの両方を行うことによって、子供達の音楽に対する知識と関心を養うことができた。



③ 第一生命 マatchingギフトを使ったアウトリーチ

第一生命の部・支社が行う地域社会貢献活動(ボランティア活動)のひとつとして、各部・支社のコーディネートによりトリトン・アーツ・ネットワークがアウトリーチを提供するという、新しいプロジェクトが発足した。初年度となる今年度は、千葉総合支社と保険金部がそれぞれの地域にある養護老人ホームで「音楽の贈り物(アウトリーチ)」を実施。各部・支社担当スタッフと共に準備を進め、ふだん外出が難しい日々を送る方々が、1時間程度

の本格的な生演奏を楽しんだ。

その他、7回目を迎える築島散歩の会との共催「桜、桜、桜が咲いた出前音楽会 in 晴海」や、国立がんセンター中央病院小児科病棟など継続的に実施している。

(2) サテライト

対象が限定されているアウトリーチ活動から一步踏み出し、ホールと開かれたコミュニティとをつなぐ役割を担う活動がサテライトである。

今年度は芝浦工業大学豊洲校にて2回、日本橋地区有志との共催による「日本橋地区気軽にクラシック」、江東区豊洲地区マンションコンサート、江東区塩浜地区マンションコンサートを実施した。



(3) ワークショップ

勝どき児童館、佃児童館と協力し「かんたん？むずかしい？弾いてみた〜い！弦楽器」を実施した。3年目となる今年は土曜日の午前に未就学児の親子を対象に、午後は小学生を対象に実施した。参加者は児童館側で公募をし、各回25名程度の参加があった。特に初めて実施した親子向けの回は、音楽を通して親子で初めての体験をすることが出来たと好評であった。演奏及び指導はアドヴェントセミナー出身の若手演奏家に依頼し、アドヴェントセミナー卒業生の活躍の場の一つとなった。

弦楽器はJ.P.モルガン寄贈の楽器を使用した。

(4) ロビーコンサート

第一生命日比谷本社ロビーでは2008年度もランチタイムコンサートを2回実施し、第一生命勤務者および近隣の方が各回100名近く集い、昼休みのひと時にトーク付きの生演奏を楽しんだ。

第一生命大井事業所では、初めて開演時間を勤務者の終業時刻に合わせたトワイライトコンサートを1回実施した。併せて地域の小学校である大井町立上大井小学校の4年生を対象にアウトリーチも実施した。

アドヴェントセミナーの受講生による発表の場としては、セミナー期間中の平日に講師と受講生がグループを組んで約2時間にわたる室内楽演奏会を1回実施した。トリトンスクエア内の勤務者、近隣住民を対象としており、昼休みを含む時間帯に気軽にコンサートを楽しめる機会を無料で提供した。トリトンスクエア内の数箇所にポスター掲示およびチラシ配置、かわら版等での告知、第一生命ホールカレンダーへの掲載をした。また、当日はロビーにてチラシの配布を行い、100名を超える観客が集まった。



(5) レクチャーコンサート

古典四重奏団による公演に先駆けて、演奏家自身によるレクチャーコンサート「ベートー

ヴェンがハイドンに好かれなかった理由」をトリトンスクエア X 棟会議室にて実施した。

(6) その他

①アーティスト・イン・レジデンス (AIR)

アーティストがある地区に滞在して、その地区で生活する人々のためにアート活動を行うアーティスト・イン・レジデンスは、今年度はクアルテット・ウィークエンド フェスタの来日アーティストでもある「ボロメオ・ストリング・クアルテット」(アメリカ)が5月28日から6月7日の間に5回、近隣地区にてアウトリーチやサンキューコンサート、公開リハーサルなどを行った。

②子供のための公開リハーサル

アドヴェントセミナー受講生と講師によって12月24日に行われるクリスマスコンサートのリハーサルを、3歳以上の未就学児童も入場可能として公開した。

小さなお子様を持つ近隣住民を対象とし、かわら版、ホームページ上にて告知、事前申込制として300名に入場引換ハガキを送付した。未就学児童が入場できる公演が他にほとんどない中で、本格的な演奏を聴く機会を無料で提供した。

③協力企画

アドヴェントセミナー出身の若手演奏家が銀座のギャラリーや若手作家の登竜門とされる上野の森美術館にて開催されたVOCA展にてミニコンサートを行い、美術関係者や一般の方々に好評を得た。

その他、地域の活動として、月島草市と中央区健康福祉まつりに参加し「リズム遊び」を実施し、それぞれ200名程度の方が参加した。

2008年度実績概要

①TAN主催/TAN協力の別 主催：40回 協力：5回

②対象施設の内訳

保育園・幼稚園	5	病院	2
小学校	12	福祉関係施設	6
中学校	0	児童館	2
高校	0	マンション	2
大学	2	その他	14

③実施地域の内訳 (2008年より地区を改訂)

日本橋地区(人形町、浜町、八重洲)	7
京橋地区(銀座、明石、築地、新川)	9
月島地区(勝どき、晴海、豊海、佃)	18
区外	11

3. 文化ボランティア拠点づくり事業

トリトン・アーツ・ネットワーク（TAN）では中央区在住・在勤者や音楽愛好家を中心とするボランティア（TANサポーター）をホームページやイベントチラシ、公演時のTANデスクなどで通年通して募集し、事業全般の運営・実施にあたる文化ボランティアの組織化と支援を目的とした活動を行った。

(1) サポーター活動への参加条件

トリトン・アーツ・ネットワークの主旨に賛同してサポーター活動を行いたいと希望する人は、登録をすることによって活動に参加でき、現在近隣住民、音楽ファンを中心に 70 人ほどが登録している。交通費は参加者の負担となる。更新は 1 年ごとで毎年 4 月初めに更新の有無を確認している。

(2) サポーター活動の種類

①サポーターミーティング

毎月第三土曜日の午後 6 時よりサポーターミーティングを開催。毎年 7 月に行われる「第一生命ホールオープンハウス」のアイデア出しから計画・運営・実施までを行う。その他、3 月に行われる「育児支援コンサート」のスタジオについてや、日々のサポーター活動に関する話を話し合い、決定する場である。

②コンサート、イベント、コミュニティ活動の当日サポーター

第一生命ホールでのコンサート、コミュニティ事業、イベントでの当日業務としてチラシの挟み込み、プログラム配布、チケット販売、ビデオ・写真撮影、会場のセッティングなどを行う。

③トリトン・アーツ・ネットワーク事務所での作業

DM発送、データ入力、コンサートのアンケート集計などTAN事務局内で発生する事務作業を行う。

(3) 2008 年度に行った主な活動

①オープンハウス 2008～晴海で探検！トリトン音楽大陸～（7 月 12 日）

サポーターが中心となって企画実施するオープンハウスも 9 回目を数え、今回はホールを一つの大陸と見立て、様々なイベントを行った。ステージでは金管五重奏、ヴァイオリン、ピアノ、声楽のトーク付きコンサートやガラコンサートを実施。スタンプラリーやバックステージツアー、弦楽器体験、かげアナウンス体験なども実施した。参加サポーターは 80 人で、サポーターの中からチーフを決め、それぞれ自主的に運営された。延べ入場者数は 934 名に達し、大人にも子どもにもクラシック音楽に親しんでもらえた。



©大窪道治

②クリスマスコンサート（12月24日）

アドヴェントセミナー「クリスマスコンサート」に日頃の活動への感謝の意味を込めてサポーターを招待した。普段はサポーターが担当している仕事をTANスタッフが分担し、抽選会を行うなどクリスマスの雰囲気を楽しんでいただいた。

ホールの中でコンサートを楽しんでいただくことによって、さらにホールへの愛着を持っていただく機会となった。

③育児支援コンサート（3月29日）

昨年に引続き、子育て中の親子のためのコンサートでの第一部「子供の音楽スタジオ」を企画・実施した。サポーターの中からチーフを決め、スタジオごとにアーティストとの打ち合わせや準備を行った。4歳から6歳までの子供達が各スタジオでクラシック音楽に触れる機会となった。参加サポーターは63名。

オープンハウス、育児支援コンサートではサポーター統括と副統括を決め、副統括が次年度の統括をするという仕組みを作り、継続的に自主的な運営が出来るよう進めている。

また、今年度は「サポーターハンドブック制作委員会」を立ち上げサポーター活動の指標となるようなハンドブックをサポーター有志と作成した。主に新規サポーターを対象とした「入門編」とサポーターの日々の活動について記載した「実践編」を作成した。

（4）文化庁委託文化ボランティア支援拠点形成事業

今年度は文化庁委託により文化ボランティア支援拠点形成事業として「アウトリーチ・コーディネーター講座」をTANサポーター及び公募で募ったボランティアの方々を対象に行った。アウトリーチ制作の中で演奏家と受入先を結びつけるコーディネーターの仕事について、実地研修を含めた全7回の講座で実施した。参加者24名（内TANサポーター6名）で、講座終了後に新規サポーターとなった方が6名いた。

この講座の実施によって、TANで実施しているアウトリーチをボランティアの方々に知っていただく機会となり、また受講生一人一人がノウハウを持ち帰り様々な地域でクラシック音楽によるアウトリーチを促進するきっかけとなった。

4. 評価事業

評価事業は 2008 年度で 7 回目を迎えた。今年度から第 3 次評価委員メンバーの任期 3 年の初年度が開始となり、2009 年 4 月 17 日と 2009 年 5 月 15 日に評価委員会を実施した。(評価結果については、「2008 年度評価事業書」に記載) また評価委員会に先立ち、2009 年 1 月 31 日第 3 次メンバーによる評価委員会の今後の進め方の検討がなされた。またホール公演を聴いていただいたり、コミュニティ活動にも参加いただいたり、TAN の活動の理解を促進した。

2006 年度より総合、ホール事業、コミュニティ事業、ガバナンスの 4 ジャンルに、全 21 項目の評価項目を設定し、評価の結果と今後の課題のコメントを付す仕組みとした。この評価結果は TAN の活動全体の進むべき方向性を観客や演奏家などからの視点、数字面からの経営管理的な視点、社会の中での TAN の活動の視点等さまざまな角度から検討いただいた客観評価であり、これを真摯に受け止め、今後の TAN の事業計画に組み込み、活動に生かし、更なる改善を図っていききたい。

また、設立当初より 7 年、評価事業を積み重ねてきたが、これまでの成果を踏まえて、今後も、音楽を通して文化サービスを提供する NPO としての新しい「評価軸」を定着させ、評価方法の確立に向けて取り組んでいきたい。

また TAN モニター制度も 2001 年度から引続き実施しており、公演ごとにモニターによるレポートをホームページ上で公開している。

5. 1～4に関する別表

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の 人数※()内 サポーター数	受益対象者 の範囲及び 人数
(1) 自主企画 公演事業	ライフサイクルコンサート (12回)	2008年 5月7日(水) 6月26日(木) 7月31日(木) 9月11日(木) 10月30日(木) 11月12日(水) 12月4日(木) 12月7日(日) 2009年 1月14日(水) 2月12日(木) 3月12日(木) 3月29日(日)	第一生命 ホール	205 (105)	中央区及び 周辺地域在住 ・在学・在勤者 4,600人
	クアルテット・ウィークエンド シリーズ(弦楽四重奏演奏 会の定期的開催演奏会) (13回)	2008年 5月30日(金) 5月31日(土) 6月1日(日) 6月5日(木) 6月6日(金) 6月8日(日) 9月15日(月) 10月3日(金) 10月19日(日) 2009年 11月3日(月) 1月31日(土) 2月22日(日) 3月22日(日)	第一生命 ホール	106 (43)	中央区及び 周辺地域在住 ・在学・在勤者 3,100人
	アドヴェント・セミナー (若手演奏家のための集中 講習)	2008年 12月14日(日) 23日(火)	第一生命 ホール及び リハーサル室	25 (2)	オーディション により選ばれ た弦楽器奏者 17人
	クリスマス・コンサート 2008	2008年 12月24日(水)	第一生命 ホール	19 (0)	中央区及び 周辺地域在住 ・在学・在勤者 TAN支援者 サポーター 430人
	オープンハウス 2008	2008年 7月12日(土)	第一生命 ホール 全館	89 (80)	中央区及び 周辺地域在住 ・在学・在勤者 930人
	共催公演(4公演)	2008年 5月21日(水) 8月8日(金) 11月15日(土) 2009年 1月9日(金)	第一生命 ホール	34 (11)	中央区及び 周辺地域在住 ・在学・在勤者 1,700人
	その他 SQWチラシ、LCCチラシ等				

(注)従事者はトリトン・アーツ・ネットワーク関係の従事者、()内はうちサポーターの人数。
AIRは「アーティスト・イン・レジデンス」を意味する。

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の 人数※()内 サポーター数	受益対象者 の範囲及び 人数	
(2) コミュニ ティ事業 ①アウト リーチ	病院・各 施設で の訪問 演奏	宮本益光(バリトン) 山口佳代(ピアノ)	2008年4月5日(土)	アートはるみ	8 (5)	近隣特別養護老人 ホーム入所者、介護 者等 100人
		菅家奈津子(メゾソプラノ) 松尾俊介(ギター)	5月17日(土)	中央区役所	2 (0)	中央区在住の母子、 寡婦 60人
		小野明子(ヴァイオリン) 伊東晶子(ピアノ)	2009年1月6日(火)	晴海苑	7 (5)	デイサービス利用 者、入所者 60人
		鈴木理恵子(ヴァイオリン) 吉田まどか(ピアノ)	1月19日(月)	ザイクスビル長南	2 (0)	ケアハウス、デイサービス 利用者70人
		鈴木理恵子(ヴァイオリン) 山本祐之介(チェロ)	2月1日(日)	国立がんセンター	2 (1)	入院患者、家族 15人
		日本音楽集団	2月25日(水)	シャローム横浜	2 (0)	入所者、ケアハウス、デ イサービス利用者等 100人
		蘭田真木子(ソプラノ) 松尾俊介(ギター)	3月6日(金)	中央区社会福祉協議会 ロイヤルパークホテル	2 (0)	在宅介護者 50人
		ホロメオ・ストリング・カルテット	2008年5月29日(木)	中央区立 日本橋小学校	6 (2)	4年生 44人
		ホロメオ・ストリング・カルテット	6月4日(水)	バイリンガル幼稚園	7 (3)	3歳～5歳37人
		海老澤洋三(チェロ) 山形明朗(ピアノ)	7月3日(木)	明石町保育園	3 (2)	0～2歳50名 3～5歳70名 保護者
	松原勝也、竹内弦(ヴァイオリン) 麻柄明日香(ウイオラ)	7月4日(金)	中央区立 明石小学校	2 (0)	3年生31人 4年生32人	
	バス・ファイブ(金管五重奏)	11月7日(金)	大井町立 上大井小学校	2 (0)	4年生60人	
	増村寿乃(ヴァイオリン) 遠山沙織(ピアノ)	11月17日(月)	月島幼稚園	4 (2)	3歳45人 4歳64人 5歳65人	
	ロンドン交響楽団メンバー ロバート・ターナー(ウイオラ) ヒラリー・ジョーンズ(チェロ) ガントウス・カルテット	12月1日(月) 12月9日(火)	中央区立 有馬小学校 中央区立 月島第三小学校	5 (1) 4 (2)	4年生60人 4年生75人	
	田村緑(ピアノ)	2009年1月22日(木)	中央区立 月島第二小学校	8 (5)	4年生50人	
	バス・ファイブ(金管五重奏)	1月28日(水)	中央区立 月島第一小学校	8 (6)	4年生40人	
	宮田英里(ヴァイオリン)	1月29日(木)	日本橋保育園	1 (0)	0歳～2歳37人 3歳～5歳53人	
	日本音楽集団	2月5日(木)	中央区立 豊海小学校	4 (3)	4年生72人	
	日本音楽集団	2月6日(金)	中央区立 佃島小学校	1 (0)	4年生100人	
	日本音楽集団	2月9日(月)	中央区立 豊海小学校	1 (0)	4年生72人	
バス・ファイブ(金管五重奏)	2月12日(木)	中央区立 中央小学校	2 (0)	4年生26名 5年生11名		
小川典子(ピアノ)	2月13日(金)	中央区立 久松小学校	3 (1)	4年生73人		
中川直子(ヴァイオリン)	2月19日(木)	晴海幼稚園	2 (0)	3歳～5歳 111人		

事業名		事業内容		実施日		実施場所		従事者の 人数※()内 サポーター数	受益対象者 の範囲及び 人数
(2) コミュニ ティ事業 ①アウト リーチ	協 力 事 業	オルガンと弦楽合奏によるコンサート トリトン・チェンバー・アンサンブル 松原勝也(指揮)		2008年	7月12日(土)	聖路加国際病院 トイスラーホール		4 (2)	聖路加国際病院患 者と 付添家族や看護師 100人
		『新時代の視点』ギャラリーライブ 早川さくら、大澤哲弥、竹花加奈子			8月8日(金)	ギャラリーQ ギャラリー山口 ギャラリーユマニテ		2 (0)	現代美術鑑賞者 80人
		新年室内楽演奏会 トリトン・チェンバー・アンサンブル 有志		2009年	1月4日(日)	マイホームはるみ		1 (1)	マイホームはるみ 施設利用者(入所者 用者)50人
		ひな祭りレインボーコンサート トリトン弦楽四重奏団 上野の森VOCA展コンサート 関口梨沙(Vn)島岡万里子(Va) 久良木夏海(Vc)			2月28日(土)	レインボーハウス明石		1 (1)	知的障害者施設利 用者と家族 50人
(2) コミュニ ティ事業 ②サテライト	プラス・ソウル		2008年	6月28日(土)	芝浦工業大学 豊洲校3階 カフェテリア		4 (2)	江東区及び 周辺地域在住 在学者 100人	
	古典四重奏団			10月5日(日)	東京フロントコート		6 (3)	マンション在住者 150人	
	クアルテット・エクセルシオ			12月6日(土)	芝浦工業大学 テクノプラザ		4 (2)	近隣住民 120人	
	浜まゆみ、チャン・エリョン(マリンバ)		2009年	2月8日(日)	塩浜刈刈ジテンス キッズクラブ		7 (5)	マンション住民 100人	
	成田博之(バリトン) 石野真穂(ピアノ)			3月13日(金)	日本橋地区		2 (0)	6年生70人 地域住民40人	
(2) コミュニ ティ事業 ③ワーク ショップ	皆川櫻子、蓑田真理、関口梨沙 田中愛		2009年	1月17日(土)	佃児童館		7 (6)	未就学児親子30人 小学生親子25人	
(2) コミュニ ティ事業 ④ロビー コンサート	皆川櫻子、蓑田真理、関口梨沙 田中愛			1月24日(土)	勝どき児童館		7 (6)	未就学児親子24人 小学生親子20人	
(2) コミュニ ティ事業 ⑤レク チャー コンサ ート	ホ・ロメオ・ストリング・クアルテット		2008年	5月28日(水)	トリトンスクエア ロビー		7 (1)	トリトンスクエア在勤者 周辺地域在住 ・在学・在勤者 100人	
	ホ・ロメオ・ストリング・クアルテット			6月3日(火)	第一生命日比谷 ロビー		9 (5)	日比谷本社在勤者 周辺地域在住 在学・在勤者 100人	
	バズ・ファイブ(金管五重奏)			11月7日(金)	第一生命大井本社ロビ		3 (1)	大井本社在勤者 100人	
	谷友博(バリトン) 大坪由里(ピアノ)			11月21日(金)	第一生命日比谷 ロビー		9 (4)	日比谷本社在勤者 周辺地域在住 在学・在勤者 120人	
	アドヴェントセミナー受講生・講師			12月22日(月)	第一生命ホール ロビー		7 (7)	トリトンスクエア在勤者 周辺地域在住 ・在学・在勤者 118人	
(2) コミュニ ティ事業 ⑥その 他	古典四重奏団		2008年	8月30日(土)	トリトンスクエア棟 会議室		4 (2)	トリトンスクエア在勤者 周辺地域在住 ・在学・在勤者 72人	
(2) コミュニ ティ事業 ⑥その 他	中央区福祉まつり		2008年	10月26日(日)	あかつき公園		7 (4)	中央区在住者 100人	
	子供のための公開リハーサル (クリスマスコンサートの公開 リハーサル)			12月23日(火)	第一生命ホール		8 (3)	中央区及び 周辺地域在住の者 未就学児含む 223人	
	日本音楽集団		2009年	2月14日(土)	日本橋公会堂		8 (5)	中央区在住者 60人	
	その他 アウトリーチハンドブック、 月島草市 等								

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の 人数※()内 サポーター数	受益対象者 の範囲及び 人数
(3) 文化ボランティア 拠点づくり事業 (サポーター)	特定非営利活動法人トリトン・ アーツ・ネットワーク全般の運営、 実施にあたる文化ボランティアの 組織化と支援	随時	TAN諸事業 の実施場所	68	中央区及び 周辺地域在住 在学・在勤者 TAN支援者等
(4) 評価事業 (評価システム)	事業評価システム(特定非営利 活動法人トリトン・アーツ・ネット ワークの事業全般を客観的に 評価、常時活性化)	随時	TAN諸事業 の実施場所	11	同上

IV. 運営に関する事項

1. 総会

- ・通常総会 2008年6月26日
第1号議案 2007年度事業報告及び収支決算承認の件、第2号議案役員選任の件が、審議され全員異議なくこれを承認した。

2. 理事会

- ・第31回 2008年5月29日
審議事項として、第1号議案 2007年度事業報告の件及び2008年度予算、第2号議案役員選任の件が審議され、全員異議なくこれを承認した。
- ・第32回 2008年6月26日
審議事項として第1号議案理事長選任の件が審議され、全員異議なくこれを承認した。
- ・第33回 2008年9月4日
審議事項なし、報告事項のみ。
- ・第34回 2008年12月4日
審議事項なし、報告事項のみ。
- ・第35回 2009年2月26日
審議事項として第1号議案 2009年度予算（暫定版）の件が審議され、全員異議なくこれを承認した。

3. 運営会議

2008年4月24日から2009年3月23日まで9回にわたり開催した。
主に、トリトン・アーツ・ネットワークの運営に関わる諸事項・諸問題について検討した。

4. 専門部会

企画分科会を2008年4月18日から2009年3月17日までの11回開催し、主にコンサートの企画について検討した。

V コンサート・アウトリーチの紹介

1. 自主企画公演

(1) ライフサイクルコンサート

9月11日(木) 11:30 開演

ライフサイクルコンサート クラシックはじめのいっぽ Vol.8 ~フルート

【報告：緑川千華子/千葉県在住・学生/2階C3列3番】

本日は「クラシックはじめのいっぽ」のテーマにて、工藤重典さんのフルートを聴かせていただきました。お昼の時間に、日本を代表するフルーティストの生演奏が聴けるとは、なんだか不思議な感覚です。少々早めに到着した第一生命ホールは、開場前にもかかわらず多くの人で賑わっており、工藤さんの人気うかがえました。



©大窪道治

期待に胸を躍らせる中、ヘンデルのラルゴから始まったコンサート。工藤さんのフルートが音を奏でた瞬間、あまりの美しさに、客席からはため息が漏れました。私は2階席の最後列、つまり工藤さんからは最も遠い位置に座っていたのですが、まるで耳元で楽器を鳴らしてもらっているかのような、澄んだ音色。美しすぎて鳥肌が立ってしまいました。

続いて、有名なテレマンのソナタ。演奏の素晴らしさは言うまでもありませんが、曲ごとに 繰り広げられる工藤さんのトークにも、非常に楽しませていただきました。作曲家の豆知識などの音楽的なお話から、工藤さんがお住まいのパリのお話にいたるまで、客席からはたびたび笑いが起こりました。工藤さんの気さくなお人柄も、大変魅力を感じさせるものでした。

その後は、歌曲、ピアノ曲など、フルートの名曲だけでなく、幅広いプログラムを楽しませていただきました。フルートのマスターピースをじっくり味わうのも良いですが、オリジナルとは違う、フルート版の演奏を味わうのも趣深いものです。唐揚げだけの唐揚げ弁当よりも、たくさんのおかずを味わえる幕の内弁当のほうが、ワクワクするものですね。

そうして同じ味付けに慣れてきたころ、ボリングの作品が印象的なスパイスとなりました。ジャズの雰囲気が新鮮で、繊細でありながら情熱的な、成田有花さんのピアノがびったりでした。全く飽きさせないプログラムで、工藤さんのセンスの良さに感服しました。

言うに及ばず、フルートの名曲といわれる作品も素晴らしかったです。「精霊の踊り」、「アルルの女」のメヌエット、「ハンガリー田園幻想曲」と、まるで伊勢えび、マツタケ、松坂牛のオードブルのよう。この内容で、お昼にふらっと聴きにいけないなんて、まさに贅沢と言わんばかりです。チケットがかなり低価格なことにも驚きました。

そして、客席が最も沸いたのは、おそらくバッジニの「妖精の踊り」でしょう。ヴァイオリンの言わずと知れた難曲ですが、超絶技巧のオンパレードに、曲が終わった瞬間、待ちきれなかったかのように大きな拍手が起こりました。フルートは、「優雅」、「癒し」という印象が強いと思いますが、激しく走り回る音符を目の当たりにして、フルートの新た

な一面に驚かれた方もいらっしやったことと思います。

クラシックのコンサートはなんとなく「敷居が高い」というイメージがあるようですが、お昼のひとときに気軽に楽しめる印象でした。テレビやCDで聴いたことのあるメロディーでクラシックに親しみを覚えると同時に、ちょっと変わった曲やインパクトのある曲によって、クラシック音楽の「奥深さ」も感じさせる、充実した一時間でした。また、工藤さんのような素晴らしい演奏家のコンサートが「はじめのいっぽ」となったなら、これほど贅沢なクラシックデビューは無いと思います。クラシック初心者でも、はたまたクラシックマニアにとっても、心から「おなかいっぱい」になれる素晴らしいコンサートでした。

12月7日（日）15：00 開演

ライフサイクルコンサート ふたりにコンサートⅤ～オペラの楽しみ～

【報告1：齋藤直美/TAN サポーター／1階9列34W番】

話は少し前のこととなります11月下旬のこと。日比谷の第一生命本社ロビーで行われた「日比谷ロビーコンサート」は、今回出演されているバリトンの谷さんの歌声に誘われてなのか、いつの間にか、用意されていた椅子は満席。立ち見の方もちらほら。「1曲だけ」のつもりが、座ってしまった方もいらっしやったような様子。プログラムも配りきってしまったみたい。そんな情景を見ているうちに、「ふたりにコンサートⅤ」が楽しみになっていた。

その数日前に、TANの広報さんから「モニターをご夫婦でお願いできませんか？」というお話をいただいた。そして、TANのサポーターを始めた2003年はちょうど5年前で、このコンサートが始まったころだったことを思い出した。自分にとっても節目の今年にこのような機会を得られたことが次の何かに繋がるように感じ、思わず引き受けてしまった。



©大窪道治

当日は、「完売御礼」ということで、顔馴染みのサポーターさんから「大入袋」を見せてもらった後、客席へ。2階席も端から端までぎっしり。年齢層も様々。おかあさんと小学生という「ふたり」もちらほら。いろんな「ふたり」がいて、雰囲気や和やかになっている心地よさを感じながら着席した。

司会も兼ねている郡さん（メゾ・ソプラノ）の楽しいおしゃべりと女性陣の華やかな衣装を楽しみながら、コンサートは展開していった。ピアノは「これぞ伴奏」といっていいのだろうか。楽曲、歌手の両方の個性にあわせ、音色が自在に変わっていく。ピアノが目立つことは無い。でも、聴き入ってしまう。歌がより鮮やかに表現されていく様子が、とても印象的だった。

第一部のアリアでは、曲によってはオペラ的一幕を思わせる構成で、第二部ではジャンルを超えた名曲が繰り広げるなど、出演者紹介を交えて楽しんだ。特に、郡さんが歌った「アメージング・グレース」は、私の大好きな曲。どんなアレンジで聴かせてくださるのか楽しみにしていた。歌が終わった時、「楽しみ」が「いやし」に変わっていた。ライブで演奏を聴く醍醐味とは、こういう瞬間があるということ。それを「楽しみ」に、演奏会へ出かけてしまう。コンサートに足を運べる幸せを改めて感じた時間だった。

プログラムが終了して、アンコールを求めての拍手のなか、2階席の男の子は、身を乗り出しそうになりながら待っているし、1階席では、立って拍手している人も。アンコールでは、4人が揃っての四重唱。郡さんがお話していた「オペラではね、メゾの役割は……」を彷彿させるようなオペラ仕立てでの演奏は圧巻。1曲が終わっても、拍手鳴りやまず、またアンコール。この「ふたりでコンサート」を待ち望んでいる方が多いだろうなあと感じるほど、ニコニコしながら拍手している様子が印象的でした。また来年も、と楽しみにしながらの声援なのだろうなと思いつつ、会場を後にしました。

【報告2：齋藤健治／元月島住人・編集者／1階9列33W番】

オペラのアリアが並ぶ第1部、映画音楽や世界の歌曲が続く第2部とで構成された「ふたりでコンサート」。音楽をきっかけに夫婦の絆をより深めていただきたい、との趣旨で始められたこのプログラムは、今年で5回目を迎えた。

「満員御礼なので、よい席をご用意できなくて……」と、TANの広報担当スタッフに差し出されたチケットを手に、特設されたイスに座る。見渡すと、2階席の隅まで席が埋め尽くされている。

一昨年にモニターを務めた時のノートをひっくり返しても、“チケットは完売”とのメモがある。例年どおりの盛況振りだ。

客層はご年配の夫婦が目立つ中、20代と見えるカップルや、お子さんを連れた30代のファミリーもホールのロビーを歩いている。その一方、出演者のCDを並べている即売場も人が絶えることがない。

* * *

「メゾ・ソプラノの役どころと言えば、だいたいが悪女、魔女、占い師なんてところですね。そうでなければ……乳母っ！」といった郡愛子さん（メゾ・ソプラノ）の茶目っ気たっぷりの司会で進むプログラムは、客席から始終笑いが起こり和やかなムードが漂っていた。

ステージに立つのは、この郡さんをはじめ、佐藤美枝子さん（ソプラノ）、川久保博史さん（テノール）、谷友博さん（バリトン）の4人。伴奏はピアノの松本康子さんが務める。



©大窪道治

「ごあいさつ代わりにアリアを1曲ずつ歌います」(郡さん)と始まった第1部「珠玉のオペラアリア」では、ロッシーニ《セヴィリアの理髪師》より〈私は街の何でも屋〉で、谷さんのバス・トーンが会場を震わす。続くビゼー《カルメン》より〈ハバナラ〉は郡さん。悪女のまさに代名詞とも言えるカルメンさながらに、客席を舞台へとぐいぐい引きずり込むかのよう。

そしてプッチーニ《トスカ》より〈星は光りぬ〉の川久保さんのテナーが、ホールに絹織のような夜のとばりを落とし、佐藤さんがベッリーニ《清教徒》より〈あなたの優しい声が〉で切なさにあふれたハイトーンを歌いきったところで会場から「ブラボー！」と拍手が湧き上がった。

* * *

続く第2部「あなたと魅惑のひとときを……」でも、4声それぞれの特長と魅力がぞんぶんに引き出された構成であり、あたかも良質のオムニバスを聴いているかのようだった。

ロウ《マイ・フェア・レディ》より〈踊り明かそう〉では、ソプラノの佐藤さんがチャーミングなお色気で舞台を彩れば、メゾ・ソプラノの郡さんはデ・クルティス〈忘れな草〉をしっとりとした日本語で歌い染める。かたやテノールの川久保さんがプロズキー《ニューオリンズの美女》より〈ビー・マイ・ラヴ〉で憧れの 人への想いを朗々と描き出し、バリトンの谷さんはニューマン《慕情》より〈恋ははかなく、恋はすばらしきもの〉で聴いている者の全身を揺さぶるような音量 で低音を響かせた。

一方、伴奏の松本さんの表情豊かなピアノも舞台に花を添えていた。アーティストのキャラクターに寄り添い、時に穏やか、時にダイナミックな演奏が舞台を華やけていたことは書き添えておきたい点だ。

* * *

そして客席に目を移せば、曲が終わると微笑み合いながら静かに話を交わしているご年配の二人連れを、ここかしこに見ることができた。

今、ステージに流れたこの曲は、お二人にとって何の思い出と結びついているのだろうか、どのような暮らしの節目に聴いた曲なんだろうか……。

そんな曲とともに歩む夫婦のライフサイクルは、きっと悪いはずはないだろう。だって、お二人の笑顔が証明している。そんな気持ちで舞台を見つめながら、時折、横に座っている妻の顔を眺めた(本日はTAN広報の計らいで、夫婦でのモニターを務めました)。

(2) クアルテット・ウィークエンド

2009年1月31日(土)16:30開場、18:00開演

クアルテット・エクセルシオ ラボ・エクセルシオ 20世紀・日本と世界Ⅱ

【報告：姉川雄大/団体職員・千葉県在住/1階13列26番】

「へー、クラシック訊くんだ、好きな作曲家とか、いる？」

「んー、ヴェーベルン」

ということはなかなかありません。せいぜい、「ゲンダイオンガク、意外と楽しいよ」と

いったところですよ。

さてこのコンサート、「ラボ・エクセルシオ 20世紀・日本と世界Ⅱ」は、そのヴェーベルンと間宮芳生の弦楽四重奏曲をあわせて聴く企画。全体の印象としては、半ば勉強をしい行ったという感想を持ちました。これが「半ば」でしかなかったところに、企画と演奏の成功があるのかもしれませんが。こういうプログラムですから、私が座っていた真ん中あたりよりも後ろは空席が目立ちましたが、オーディエンスのほとんどが知的な関心から来場していたようで、私の近所で何人かが寝ていた以外は、非常に熱心に演奏に聴き入っていました。間宮氏の話やひとつひとつの演奏への反応も上々だったと思います。

来場者のほとんどが知的な関心から来ていた、というのは、来場者のかなりの部分が作曲者である間宮氏のプレ講演から参加していたことでも分かります。話の内容も面白く、そういう意味では講演は短く感じましたが（30分）、といてこれ以上長い訳にもいかないだろうな、とも思いました。特に面白かった部分は、間宮氏の時間論です。著書を読んでもいればより興味深い部分ですが、各地の民俗音楽やクラシック音楽を、加速になじむ音楽と減速による表現こそふさわしい音楽とに分けていたこと、そして自身の作品を、後者に位置づけていたことです。自身の減速する作品にインスピレーションを与えたという、ある民俗音楽の録音が紹介されたことによって、この話にさらなる説得力が加わっていました。

会場は大きさ、響きともに、非常に室内楽に適していると感じました。もっと大きな会場で弦楽四重奏を聴くときには、最初は頼りなく感じたりするものですが、今回ははじめてから十分な迫力と緊張感で演奏に引き込まれました。コンサートではなかなか無いことです。もっとも、これは演奏の良さもあったのかもしれませんが。クアルテット・エクセルシオは、スピード感とくっきりとした輪郭を持った、知的で小気味のいい演奏をします。だから現代音楽を説得的に表現することに適した演奏で、好感が持てました。



©大窪道治

しかし、「知的で小気味のいい」演奏を「はじめてから十分な迫力で」実現できた、というこのクアルテットのパフォーマンスには、ちょっとした副産物もありました。そのひとつは、ヴェーベルンの最初の曲は、ロマン派的なヴェーベルンの良さを堪能できたのですが、第2,3曲ではマンネリになってしまったことです。これは演奏のせいというよりは、作品の質の問題かもしれません。当時としては新しかった技法は、今から見れば、続けて聞くには少々パターン化したものになっていると思います。ヴェーベルンをこれだけ並べて年代順に聴いていく、という企画によってこれが分かったというのは、ある意味狙い通りなのかもしれませんが。そうだとすると、現代音楽が時代と演奏によって古典化する現場を体験できたということでしょうか。

もうひとつは、後半のプログラム、間宮氏作曲の弦楽四重奏曲の演奏です。演奏自体は明晰と安定に貫かれた好感の持てるものでした。しかしその作品が加速と対極にあるもの、

という間宮氏自身の話を先に聞いてしまうと、快速調の演奏は「間宮風」ではないのではないか、と思ってしまう。

これらの「副産物」は、したがって、企画の面白さと演奏者のある種の美点から導かれたものといえそうです。はじめに、半ば勉強をしに行ったような気分だった、と書いたのもそういうことです。つまり、今回のコンサートは、知的な関心を持ち続けながら参加してこそ企画だったということです。だから「副産物」といいながらも、そのことにあまり否定的な印象は持たず、それらを含めて面白かったと思います。ここまで書いてから気づきましたが、コンサートのタイトルとプログラム自体が、あらかじめそのようなメッセージを含んでいたのですね。

(3) クリスマスコンサート

12月24日(水)

【報告：佐々木久枝/会社員・華道教授/中央区勤務/ 2階L1列30番】

イルミネーションが夜空を彩る川沿いを歩きながら1年を振り返るひととき。何かと忙しい年末年始にあつて、こういう時間もあつてよいものです。

今回は選りすぐりの若手奏者達による公開コンサート。実は今まで聴いた事がなく、熱心なサポーター氏の勧めもあり、平日の今回初めて聴く機会に恵まれました。



©大窪道治

客席には今日はお客様のおなじみのサポーター仲間はもちろん、熟年の御夫婦や和服姿の女性グループ、働き盛りのサラリーマンやカップル等、さまざまなお客様が来場、会場内にはクリスマスツリーも飾られ、華やかさに満ち溢れていました。

メンデルスゾーン：弦楽のためのシンフォニア第3番ホ短調

第1楽章アレグロでは冒頭から潤いある響き。フーガの部分では一体となって強弱のメリハリを効かせており、バッハのピアノ協奏曲第1番冒頭を思い起こさせるものでした。第2楽章アンダンテではのどかな田園を思わせる伸びやかな演奏、粒ぞろいの響きはピチカートに至るまで続いていました。第3楽章アレグロでは装飾音も華麗に決めて全体的に引き締まった演奏、バッハのイタリア協奏曲や彼の厳格な主題による変奏曲テーマを思わせる壮麗さに満ちたアンサンブルを展開していました。

グリーグ：組曲「ホルペアの時代より」作品40

第1楽章前奏曲では軽快な勢いの中にピチカートの柔らかさや気品も感じさせ、映画音楽のような生き生きとした動きが印象的でした。第2楽章サラバンドではピチカートの響かせ方が巧みで、チェロの三重奏に続くクレッシェンドの分厚い音の帯も心地良い響きを聴かせて色彩感豊かな演奏でした。第3楽章ガヴォットとミュゼットでは、上品に弾む独

特のリズムに乗ってアンサンブルを繰り広げ、トリオでのチェロとヴァイオリンのかけ合いもスムーズでした。第4楽章アリアでは低音弦の歩みに乗って切々と奏でられるヴァイオリンが印象的、中間部の明るい部分にも劇的な哀しみをたたえたアンサンブルを展開していましたが、再現部への橋渡し場面では胸がいっぱいになりました。再現部での強奏も崩れる事なく安定した演奏でした。第5楽章リゴドンでは元気はつらつなヴァイオリンとビオラのソロがたっぷりと響かせて奏しており、後出しのコントラバスのピチカートもよく響いていました。再現部でも集中力は途切れず密度の濃い演奏を繰り広げていました。

バルトーク：弦楽四重奏曲第2番作品17

ゲストには華々しくプレアデスの師匠達が登場しました。

第1楽章モデラートでは静かな中にチェロが深い奥底に広がるような響き、他3人も細部にまで神経を研ぎ澄ましたような緊迫感が満ち、一糸乱れぬ一体感を見ていて、今回のセミナーの様子をそれとなく想像していました。第2楽章アレグロモルトカプリチオーソではどこかオリエントな雰囲気も感じさせる躍動感溢れるメロディ、音を滑らすような場面でもテクニックを見せるだけでなく音に乗って舞い遊んでいました。チェロと3人の間奏が更に前進していくパワーは聴いていてもなかなか面白いものでした。テンポを上げては緩めるという部分も巧みで、弦楽器を「打つ」というイメージのあるバルトークを余す所なく伝えていました。第3楽章レントでは雅楽を思わせる音の重なり方に始まり、同じ音型をリレーしていく部分は曲に対する愛情も感じられ、音ひとつひとつに向き合っていくひたむきさが伝わってきました。

チャイコフスキー：弦楽セレナードハ長調作品48

第1楽章では冒頭から豊潤な響きが縦横無尽に満ち、展開部でのコントラバスの巧みなピチカートや細やかな他パートの刻みが印象的でした。今回のメンバーはピチカートが本当に上手で、再現部での幅広くたっぷりとした響きに大満足しました。第2楽章ワルツでは滑らかに始まり、良く揃ったタテの響きを堪能しました。第2テーマのテンポルパート部分や再現部への橋渡し部分でも松原講師を軸として師匠達共々大変よくまとまっています。第3楽章エレジーでは、この美しいひとときが過ぎ行くのを惜しむかのような切々としたアンサンブルを繰り広げていました。柔らかなピチカートに乗って物寂しげなメロディが情感たっぷり込めて歌い進められていました。音は発した瞬間、完了形→過去形へと変化(へんげ)しますが、その刹那の美しさを徐々に味わった印象です。拍の裏をもしっかり感じさせてくれました。第4楽章ロシア風 テーマによるフィナーレでは冒頭は緩やかに美しい歌を聴かせ、その後堂々としたチェロのテーマ提示も奥深い響きと上3声との対話との対話もまた強弱のメリハリが効いており、パーカッション舞曲を思わせるピチカートに乗ってチェロが歌い、ヴァイオリンが歌い、全てが一つのエネルギーのかたまりとならずんば前に進んで行っていました。フィナーレを飾る(曲全体の)冒頭テーマが熱さを加えつつ、4楽章のテーマも織り込んで見事に結実しておりました。

アンコールは山本祐ノ介さん編曲の「きよしこの夜」。ステージ上にもクリスマスツリーが映し出され、幻想的なひとときを奏でておりました。

今回の参加メンバーはいずれも現役生かそれに近い人達で、コンクール入賞者や奨学生、マスタークラス参加者といった実力者揃いでしたが、「即メジャーデビュー」に走りがちな日本のクラシック音楽界にあって、一定期間講師達とじっくり一から音楽を作り上げていくこのセミナーの存在意義は大きいなと感じた次第です。せっかく手にした才能をいかに丁寧に磨いていくべきか、改めて考えさせられました。既に何回もこのコンサートが開催されているとの事ですが、今まで聴けなかった事が本当に悔やまれるくらいにレベルの高い演奏を聴かせていただきました。

(4) 共催公演

5月21日(土)19:15 開演

日本音楽集団第191回定期演奏会 《管・弦・打響》～大編成アンサンブルの魅力～

【報告：青木然/学生/2階L1列41番】

最後の曲、「巨火」の演奏は、まさに「序破急」の急のように終わった。最後の音が衝撃とともに発して、厚みをもって広がり、余韻を残して消えていった。その緊張感と昂揚感を、演奏者と聴衆は共有し、深い感銘を覚えたはずである。拍手が沸き起こる前の、一瞬の濃厚な沈黙が、そう思わせた。

日本文化は、音の響きや余韻を大切にしてきたといわれる。寺の鐘、ししおどし、水琴窟。いずれも音が鳴ってから消えてゆくまでの、響きの時間を楽しむ。ほんの一瞬の時間を、感性によって何倍にも引き延ばして楽しむ。和楽器は、そんな響きの文化で育まれた。今回の演奏会のテーマが《管・絃・打響》であるのも、和楽器の響きを大切にしたいとの思いからであろう。

私が、日本音楽集団の演奏を拝聴するのは、今回が初めてであった。それどころか、大編成アンサンブルの和楽器を聴くことも初めてであった。日本舞踊を習っているため、端唄や長唄を聴く機会があり、また歌舞伎を見に行き、迫力ある大人数の生演奏を聴く機会もあった。そのため、和楽器そのものには驚きを感じない。しかし、西洋クラシックと融合した曲を和楽器で演奏すること、和楽器が指揮者によって調子を合わせていること、そういうスタイルの方に新鮮な驚きを感じた。邦楽は、基本的にはユニゾンでハーモニーを楽しむものではなく、またテンポも互いに息を合わせることで整えるものだと思っていたからだ。

そんな「邦楽はかくあるべし」という私の固い先入観のせいかもしれないのだが、一曲目の「夷曲・西稜楽」と二曲目の「十七絃と邦楽器群のための協奏曲」には、正直なところあまり入り込めなかった。西洋クラシックの要素が強すぎて、和楽器の持ち味である響きが存分に発揮されていないような気がした。それに比べ、三曲目の「朱輪金鈴」と四曲目の「巨火」は、和音階を多用し、自在な間をとったソロ演奏も組み込んでいて、和楽器の良さを堪能できる曲であった。

三曲目と四曲目を聴いて、私の先入観はすこし崩れた。和楽器を大編成アンサンブルで聴かせるというスタイルは、和楽器のポテンシャルを引き出す新しい方法なのかもしれない。まだ私たちの知らない、和楽器のさまざまな響きのパターンを、このスタイルが導き出してくれる。新たな響きの発見を期待して、次の演奏会にも足を運びたいと思う。

2. アウトリーチプログラム

(1) バイリンガル幼稚園アウトリーチ

演奏者：ポロメーオ・ストリング・クァルテット

場所：バイリンガル幼稚園内

2008年6月4日実施

アウトリーチ活動報告書フォーマットに基づく芸術鑑賞会の記録

記録者：松木まどか

【主たる対象者】

バイリンガル幼稚園の3,4,5歳 37名

【聴き手の演奏会時の様子】

観察：教室に入るときはやや緊張した面持ち。突然演奏が始まり、その勢いに驚いたように演奏者を見つめていた。中には手拍子を始める子もいた。演奏中、前列の子たちは食い入るように見つめていたが、真ん中から後ろの列の子は、大人たちを気にしている子も少なくない。『虫を書いた曲』は出だしが特殊だったからか、始めからじっと聴いている子が多かった。最後の曲では早いテンポで自然と手拍子が起こり、演奏の雰囲気が変わると手拍子を止め、またテンポが戻れば嬉々として手をたたき子が何人かいた。静と動の両方が交互にあったプログラムだったので、飽きた様子を見せる子はほとんどみられなかった。



【当日配布資料】

特になし

【演奏者と聴衆のコミュニケーション】

「～だよな？」と問いかけることは、子どもたちが「うん」で答えれば良いので、やりとりのきっかけづくりとして使われていた。また、歌うことで緊張がほぐれるのか、歌のたびに演奏家とのやりとりが活発になっていた。次第に問いかけなくても思ったことをそ

のまま言う子が増え、そうすると演奏家は、子どもの発言の流れを中断させることなく、進行に必要な発言を拾っていた。基本的に元渕さんが子どもたちと言葉のやりとりをしており、ときに通訳として他のメンバーと子どもたちの橋渡しをしていた。

【プログラムについて】

- ・挨拶代わりに音楽+楽器紹介（音の高低と楽器の大小の関係）
- ・ベートーヴェン：スケルツォ
- ・ベートーヴェン：ワルツ
- ・歌：1番“ABCの歌” 2番“きらきら星”それぞれ英語で。
- ・バルトーク？：『虫を書いた曲』
- ・歌：“Head, shoulders knees and toes”、“あたま、かた、ひざ、つまさき”
- ・バルトーク：『3+2+2+3のリズムを持つ曲』
- ・歌：“If You’re Happy and You Know It, Clap Your Hands”
- ・クアルテットのメンバー紹介
- ・シューベルト？：『みんなが楽しくなるような曲』

【その他気づいた点】

一番はじめに、何も言わずに突然演奏を始めたことは、子どもに強い印象を与えていた。まず子どもの意識を、音楽と演奏者に向かわせることにつながっていた。

『あたま、かた、ひざ、つまさき、ひざ、つまさき』の2+2+3+3のリズムは、聴いていると耳を通りすぎて終わってしまうが、全身を動かすことで体の様々な部分に記憶として残ることになる。複雑なリズムだからこそ、ただ聴かせるのではなく体験してもらおうという方法が面白いと思った。

（2）ロンドン交響楽団メンバーによるアウトリーチを見学して

2005年 アドヴェントセミナー受講生

チェロ 海老澤洋三

12月最初の晴れの日。
小学校にロンドン交響楽団が…。

外国人の二人の奏者はチェロとヴィオラを抱えて、音楽室に入って来ました。

15分くらいリハーサルをした後、その場に板付き、子どもたちを演奏で迎え入れます。部屋に入ったときからすでに音楽の時間がはじまり、子供たちは嬉しそうでした。

英語で話す二人の奏者には通訳がつき、言葉の違いを実感しつつも様々な曲を奏でる奏者



たちの「音楽」という共通語に安心と喜びのあふれた温かい時間が流れていきました。

驚いたのは2つ。

ひとつは奏者の方の用意した楽譜の多さ。

チェロとヴィオラという編成はなかなか無いのですが、そこには手作りの二重奏編曲版。

その曲数は何百あるのか…分厚いファイルで3冊も。

しかもオーケストラの曲から室内楽や映画音楽までと内容は幅広い。

もうひとつはプログラムが無いこと。

その時の子どもたちの反応をみて、その場で曲を選ぶというやり方。

なにがでるのかわくわくしながら楽しめました。

僕自身も演奏させて頂いていますが、まずプログラムを決めてしっかり用意するので、臨機応変な奏者の柔軟性は大変勉強になりました。

どんなこともそうかもしれませんが言葉や文化が違くと、歩む道は様々。

国によってアウトリーチはスタイルが違うな、と実感しました。

しかしながら、本質は同じ。向かうところは同じ気がします。

演奏会に行きたくても行くことが叶わない人たちのために。

音楽が与える「温かな愛」(Warm Affection=Love)を。

やり方の違いや発想の違いを情報交換し、より良い環境を目指していく。

世界が手を取り合って、人と人を音楽で結ぶ。

その日の午後、ブリティッシュカウンシルで行われた、日英共同シンポジウムで大切な音楽の本質を垣間見たような気がしました。

(3) 2008 年度小学校アウトリーチ児童用アンケート集計結果 (16 校中 7 校)

回答人数: 444 名		(人)	(%)
1. 目の前で演奏をきいてどうでしたか？ (複数回答)	1. 楽しかった	321	72
	2. 音が大きくて耳に響いた	130	29
	3. 演奏がすごかった	287	65
	4. 少しあきてしまった	23	5
	5. 楽器が面白かった	112	25
	6. 話が面白かった	88	20
2. 「クラシック音楽」をどう思いましたか？ (複数回答)	1. 楽しかった	254	57
	2. またききたい	312	70
	3. むずかしかった	37	8
	4. よくわからなかった	12	3
	5. 授業でならった	3	1
	6. 自分も演奏したいと思った	192	43
3. 音楽会が終わったあと、どう思いましたか？(複数回答)	1. 自分も何か楽器を演奏してみたいと思った	284	64
	2. 今、学校でやっている合唱や合奏をがんばりたいと思った	159	36
	3. 音楽会に行ってみたいと思った	143	32
	4. とくに何も思わなかった	25	7
	5. 音楽はあまり好きではない	8	2
	6. 今まで音楽はあまり好きではなかったけど、好きになった	58	13
4. 第一生命ホールへ行ったことがありますか？	ある	110	25
	ない	320	72
	未回答	14	3

【感想の抜粋（自由記述）】

・小川さんのえんそうがとてもすばらしくて、すべての曲がむずかしいのばかりだったです。ぼくもピアノをなっているけれど小川さんのえんそうはぼくのえんそうよりくらべ物にならないくらいうまく、うっとりしてしまいました。

・私は来年に、きんかんをやるので、すごい楽しみになってきました。がっきをふくのはたいへんそうだと、思いました。



・あんなすごいきれいな音楽が目の前で聞けて、感動しました。演奏家の人たちと一緒に合奏できてうれしかったです。

・ピアノの下に入って、きょうばんをさわった時がすごい音で、またもぐりたいです。アトラクションみたいで、すごかったです。

・特に心に残っているのは「トランペット吹きの休日」と「ディズニーメドレー」です。トランペット吹きの休日では、トランペットを吹いている二人の方の指の動きが、速く吹かなければならないのになめらかにしかも音がきちんと合っていることがすばしかったです。

私も金管クラブに入っているのですが、あのように吹くことはなかなか難しいと思いました。

今まで私はオーケストラに入りフルートを吹きたいと思っていました。今回皆さんの演奏を聴いて、その気持ちがとても強くなりました。将来、皆さんのようにうまく楽器をひいたり吹いたりして、プロの演奏者になり、人々の心に残るような演奏がしたいです。

・かっこよくて、とくにふえが手をうごかす所や口を動かす所がかっこよかったです。三味線は手でもうちわのような物がかっこよかったです。



・私はクラリネットをふけます。なので、だいたい強い息を送ることができるのでふけるかなと思いました。実際には息が強ければ良いというわけではなかったのは、やれなかったけどわかりました。やっぱり演奏していただいた人はたくさんの努力をしているということがわかりました。

VI 取材記録・掲載された主な記事

1. 新聞(11件)

媒体名	掲載日	コーナー名	テーマ
読売新聞	2008年5月26日	シティライフ	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・クアルテット
毎日新聞	2008年7月24日	聴く	クラシックはじめのいっぽ～ソプラノ編～
読売新聞	2008年9月2日	シティライフ	ブレアデス・ストリング・クアルテット
時事通信社	2008年9月11日	フィーチャー	アウトリーチ活動
朝日新聞	2008年10月16日	朝日マリオンNPO・NGO	630コンサート
読売新聞	2008年10月21日	シティライフ	630コンサート
読売新聞	2009年1月6日	シティライフ	クラシックはじめのいっぽ～アコーディオン
読売新聞	2009年1月13日	シティライフ	SQWギャラリー#76 クアルテット・エクセルシオ
朝日新聞	2009年1月22日	朝日マリオンNPO・NGO	「Meet the 和楽器」一般公開
読売新聞	2009年1月27日	シティライフ	630コンサート ピアノトリオの楽しみ
読売新聞	2009年2月10日	シティライフ	00年を記念して I

2. 雑誌等(56件)

媒体名	掲載日	コーナー名	
定年時代	2008年4月下旬号	音楽	クラシックはじめのいっぽ〜パーカッション、ソプラノ、フルート
定年時代	2008年7月上旬号	音楽	第一生命ホールオープンハウス2008
定年時代	2008年11月下旬号	音楽	ふたりにコンサートV
article	2008年7月号	Hermony ticket	クラシックはじめのいっぽ〜ソプラノ
しんぶん赤旗	2009年1月30日		SQWガレリア#76 クアルテット・エクセルシオ
アエルデ	2008年6月号	読者のひろば	クラシックはじめのいっぽ〜パーカッション
アエルデ	2008年7月号	読者のひろば	第一生命ホールオープンハウス2008
アエルデ	2008年10月号	読者のひろば	630コンサート
中央らいふ	2008年6月5日号	読者プレゼント	クラシックはじめのいっぽ〜ソプラノ
中央らいふ	2008年7月5日号	夏休みイベント情報	第一生命ホールオープンハウス2008
中央らいふ	2008年10月17日号	読者プレゼント	クラシックはじめのいっぽ〜サクソ
中央らいふ	2008年11月17日号	読者プレゼント	クラシックはじめのいっぽ〜アコーディオン
中央らいふ	2009年1月5日号	読者プレゼント	クラシックはじめのいっぽ〜ピアノ
TRITON LIFE	2008年夏号(6月1日発行)	Triton Wonder Life	クラシックはじめのいっぽ〜パーカッション、ソプラノ
TRITON LIFE	2008年秋号(9月1日発行)	特集ページ	TAN主催公演(LLC・SQW)の紹介
TRITON LIFE	2008年秋号(9月1日発行)	Triton Wonder Life	630コンサート
TRITON LIFE	2009年冬号(12月1日発行)	Triton Wonder Life	クラシックはじめのいっぽ〜アコーディオン〜
TRITON style No.4	2008年9月	Harumi Triton Information	630コンサート
月刊HERS	2008年5月号	はみだし室内楽	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・クアルテット
月刊HERS	2008年9月号	はみだし室内楽	古典四重奏団レクチャーコンサート
月刊クーヨン	2009年2月号	Event	育児支援コンサート
びあ	2008年12月4日発売号		ふたりにコンサートV
びあ	2009年2月19日発売号		SQWガレリア エルデーディ弦楽四重奏団〜ハイドン没後200年を記念して I
びあ	2009年4月2日発売号		SQWガレリア エルデーディ弦楽四重奏団〜ハイドン没後200年を記念して II
音楽の友	2008年4月号	News&Information	SQW2008-2009ラインナップ
音楽の友	2008年5月号	若手クアルテットの注目株	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・クアルテット
音楽の友	2008年5月号	Concert Reviews	クララ&ロベルト・シューマンノ愛、輝きと優しさ
音楽の友	2008年5月号	Concert Reviews	ブレアデス・ストリング・クアルテット
音楽の友	2008年7月号	Concert Reviews	日本音楽集団第191回定期演奏会
音楽の友	2008年7月号	News&Information	第一生命ホールオープンハウス2008

媒体名	掲載日	コーナー名	
音楽の友	2008年8月号	Concert Reviews	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・カルテット
音楽の友	2008年9月号	特集	来日演奏家特集・カルミナ四重奏団(2009年SQWフェスタ)
音楽の友	2008年12月号	Concert Reviews	古典四重奏団ベートーヴェン・ツィクルスVol.1-1
音楽の友	2009年2月号	News&Information	LSOシンポジウム「アウトリーチのこれから」
音楽の友	2009年2月号	News&Information	SQWガレリア ラボ・エクセルシオ間宮芳生プレートーク
音楽の友	2009年4月号	今月の〇得情報	育児支援コンサート／はじめのいっぽ 森麻季
音楽の友	2009年4月号	コンサートカレンダー;その他のおすすめコンサート	エルデーディ弦楽四重奏団
教育音楽	2008年6月号	特集	アウトリーチを活用しよう
教育音楽	2008年8月号	TOPICS	第一生命ホールオープンハウス2008
ムジカノーヴァ	2009年2月号	News&Events	630コンサート～ピアノトリオの楽しみ
ムジカノーヴァ	2009年2月号	News&Events	Meet the 和楽器
ムジカノーヴァ	2009年2月号	News&Events	はじめのいっぽ～ピアノ
ムジカノーヴァ	2009年2月号	News&Events	育児支援コンサート
モーストリー・クラシック	2008年6月号	主催者イチ押し公演	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・カルテット
モーストリー・クラシック	2009年2月号	2009年来日アーティスト一挙紹介	SQWフェスタ カルミナ四重奏団
String	2008年6月号	インタビュー	音楽のキュレーターとは(1)箕ロー美インタビュー
String	2008年7月号	インタビュー	音楽のキュレーターとは(2)箕ロー美インタビュー
String	2008年8月号	インタビュー	音楽のキュレーターとは(3)箕ロー美インタビュー
String	2009年3月号	インタビュー	SQWフェスタ ポロメーオSQ ニコラス・キッチンインタビュー(弦楽器奏者は譜捲りマシンの夢を見るか)
ショパン	2008年12月号	CDRecommend	小倉貴久子(フォルテピアノ)浜松市楽器博物館コレクションシリーズ 録音:第一生命ホール08年3月2日
ぶらあぼ	2008年5月号	びっくあつぷ	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・カルテット
ぶらあぼ	2008年9月号	びっくあつぷ	SQWガレリアシリーズ
ぶらあぼ	2009年4月号	びっくあつぷ	SQW2009-2010 Festa カルミナ四重奏団
コンサートなび	2008年6月1日号	ただいまチラシ配布中!	SQWフェスタ ポロメーオ・ストリング・カルテット
コンサートなび	2009年3月1日号	ただいまチラシ配布中!	SQWガレリア プレアデス・ストリング・カルテット～ベートーヴェン全曲演奏会V
ぴあ特別編集「クラシック最新情報」	2008/2009年Vol.9冬号	2009年もクラシックがスゴい!	SQW2009-2010Festa カルミナ四重奏団

3. テレビ・ラジオ(3件)

媒体名	番組名	放送日	テーマ
NHK	BSクラシック倶楽部	2008年10月3日(金)	ヘンシェル・カルテット 出演:ヘンシェル・カルテット、澤和樹(ヴィオラ)(2007年11月21日公演・再放送)
FMえどがわ		2008年7月11日(金)16:00～	オープンハウス2008
TBS他		2008年11月3日～	第一生命CM内にTANの活動紹介(オープンハウス・育児支援コンサート:3～4秒程度)

4. サイト、HPなど(11件)

媒体名	ページ名	アップ日	テーマ
楽天チケット	特集ページ	2008年4月10日	SQWフェスタ
楽天チケット	特集ページ	2008年9月1日	SQWガレリア(全8公演)
「チケットぴあ」	号外メールマガジン	2008年6月20日	SQWガレリア(全8公演)
リトルママ東京	ママの知っ得情報	2008年7月	アウトリーチ活動
リトルママ東京	ママの知っ得情報	2008年7月	第一生命ホールオープンハウス2008イベント情報
リトルママ東京	ママの知っ得情報	2008年8月	第一生命ホールオープンハウス2008当日レポート
銀座新聞ニュース	ヘッドラインニュース	2009年10月6日	古典四重奏団 ベートーヴェン・ツィクルス
銀座新聞ニュース	ヘッドラインニュース	2009年1月13日	クラシックはじめのいっぽ～アコーデオン
レッツエンジョイ東京	イベント情報	2008年6月	SQWガレリア(全8公演)
レッツエンジョイ東京	イベント情報	2009年10月	630コンサート 充電の1時間 トルヴェール・クワルテット
レッツエンジョイ東京	イベント情報	2009年2月	630コンサート 充電の1時間 ピアノトリオの楽しみ

Ⅶ トリトン・アーツ・ネットワークからの情報発信

1. かわら版

号	発行日	主な見出し
かわら版4月号 69号	2008. 4. 1	はじめのいっぽVol.5 堀米ゆず子さんインタビュー
かわら版5月号 70号	2008. 5. 1	SQWフェスタ TANディレクター箕ロー美さんインタビュー
かわら版6月号 71号	2008. 6. 1	はじめのいっぽVol.6 加藤訓子さんインタビュー
かわら版7月号 72号	2008. 7. 1	はじめのいっぽVol.7 幸田浩子さんインタビュー
かわら版9月号 73号	2008. 9. 1	はじめのいっぽ Vol.8 工藤重典さんインタビュー
かわら版10月号 74号	2008. 10. 1	630コンサート トルヴェール・クワルテットインタビュー
かわら版11月号 75号	2008. 11. 1	ふたりにコンサートⅤ 郡愛子さん・谷友博さんインタビュー
かわら版12月号 76号	2008. 12. 1	はじめのいっぽ Vol.11 御喜美江さんインタビュー
かわら版2月号 77号	2009. 2. 1	育児支援コンサート クアルテット・エクセルシオ インタビュー
かわら版3月号 78号	2009. 3. 1	はじめのいっぽ Vol.12 小川典子さんインタビュー
かわら版号外		オープンハウス
かわら版号外		育児支援コンサート

2. ぶらあぼ

号	発行日	上段 インタビュー
2008年4月号	2008.3.18	はじめのいっぽVol. 5 堀米ゆず子さんインタビュー
2008年5月号	2008.4.18	SQWフェスタ 箕ロー美TANディレクターインタビュー
2008年6月号	2008.5.18	はじめのいっぽVol. 6 加藤訓子さんインタビュー
2008年7月号	2008.6.18	はじめのいっぽVol. 7 幸田浩子さんインタビュー
2008年8月号	2008.7.18	はじめのいっぽVol. 8 工藤重典さんインタビュー
2008年9月号	2008.8.18	SQWガレリア 児玉TANディレクターインタビュー
2008年10月号	2008.9.18	630コンサート トルヴェール・クワルテットインタビュー
2008年11月号	2008.10.18	はじめのいっぽVol.9、10 向山佳絵子さん・平野公崇さんインタビュー
2008年12月号	2008.11.18	ふたりにコンサートⅤ 郡愛子さん・谷友博さんインタビュー
2009年1月号	2008.12.18	SQWガレリア#76“ラボ・エクセルシオ” 作曲家間宮芳生インタビュー
2009年2月号	2009.1.18	SQWガレリア#76“エルデーディ弦楽四重奏団インタビュー
2009年3月号	2009.2.18	はじめのいっぽVol.12 小川典子さんインタビュー
2009年4月号	2009.3.18	SQW2009-2010 Festa ベネヴィッツ・クワルテットインタビュー

Ⅷ 収支報告

平成20年度収支計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

特定非営利活動法人
トリトン・アーツ・ネットワーク
(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 年会費収入		
個人年会費	7,560,000	
法人年会費	8,900,000	16,460,000
2 助成金収入		
助成金収入		22,702,778
3 寄付金収入		
寄付金収入		57,500,000
4 事業収入		
チケット売上高	13,188,750	
企画料収入	450,000	
販売受取手数料	59,366	
かわら版掲載料	1,050,000	14,748,116
5 雑収入		
受取利息	63,220	
雑収入	528,189	591,409
6 棚卸資産振替収入		
貯蔵品		0
当期収入合計(A)		112,002,303
II 支出の部		
1 事業費		
公演制作費	47,376,006	
地域活動制作	4,669,677	
評価システム	970,464	
サポーター	716,392	
業務委託料	7,820,000	
外注印刷費	1,131,114	
広告宣伝費	6,935,375	
ホームページ	359,400	
通信費	776,642	
社用外出交通費	83,820	70,838,890
2 管理費		
給料手当等	26,967,396	
通勤交通費	1,687,660	
法定福利費	2,944,339	
福利厚生費	173,468	
顧問料	1,314,500	
会議費	4,560	
交際費	268,079	
諸会費	67,262	
備品消耗品費	1,752,705	
新聞図書費	13,960	
支払手数料	937,203	
レンタル料	25,200	
水道光熱費	100,474	
地代家賃	3,182,662	
賃借料	1,016,859	
租税公課	351,052	
雑損失	1,000	40,808,379
3 棚卸資産振替支出		
貯蔵品		106,303
4 固定資産取得支出		
工具器具備品	160,282	
ソフトウェア	225,750	386,032
当期支出合計(B)		112,139,604
当期収支差額(A)-(B)		-137,301
前期繰越収支差額(C)		18,741,722
次期繰越収支差額(A)-(B)+(C)		18,604,421

Ⅸ 個人会員・法人会員・協賛企業・助成金・認定

1. 個人会員

2. 法人会員

(ア) エステルハージ・サークル会員

第一生命保険相互会社
キャピタル・インターナショナル株式会社
アメリカンファミリー生命保険会社
株式会社損害保険ジャパン
アサヒビール株式会社
住友商事株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社竹中工務店
清水建設株式会社
みずほ証券株式会社
新光証券株式会社
メリルリンチ日本証券株式会社
株式会社NTTデータ
株式会社日立製作所
(匿名希望 2社)

(2009年3月末現在 16社)

(イ) ラズモフスキー・サークル会員

株式会社ビデオプロモーション
東京電力株式会社
大成建設株式会社
株式会社大林組
株式会社みずほコーポレート銀行
資産管理サービス信託銀行株式会社
日本物産株式会社
株式会社第一ビルディング
第一生命情報システム株式会社
第一フロンティア生命保険株式会社

(2009年3月末現在 10社)

(ウ) ブラボー・サークル会員

相互住宅株式会社
日本建設株式会社
学校法人芝浦工業大学
第一生命カードサービス株式会社

(2009年3月末現在 4社)

以上ご加入順・敬称略

3. 協賛金

J.P.モルガン証券会社
第一生命保険相互会社
アメリカンファミリー生命保険会社

4. 助成金

日本財団
中央区文化・国際交流振興協会
文化ボランティア推進モデル事業（文化庁）
芸術拠点形成事業（文化庁）

5. 認定

社団法人 企業メセナ協議会

X 理事・職員・評価委員

1. 特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク理事及び職員 (2009年3月末現在)

理事長 加茂 文治
理事 藤田 正厚
理事 三木隆二郎
理事 倉林 京子
理事 加納 岳
理事 播戸 正臣
監事 永山 妙子

事務局長 高山 秀男
事務局次長 江森 早苗
ディレクター 児玉 真
ディレクター 田中 玲子
制作担当 菊地 麻維
制作担当 櫻井 あゆみ
制作担当 黒澤 洋子
広報担当 佐藤 公彦
チケット担当 宮崎友紀子

2. 2008年度評価委員

委員長 武濤 京子 昭和音楽大学音楽学部音楽芸術運営学科 准教授
委員 片山 正夫 財団法人セゾン文化財団 常務理事
委員 喜多 爽 社団法人企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー
委員 河野 聡 中央区文化・国際交流振興協会 事務局長
委員 善積 俊夫 社団法人日本クラシック音楽事業協会 常務理事
(五十音順)

X I 特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワークという。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を東京都中央区晴海1丁目8番10号に置く。

(目的)

第3条 この法人は、東京都中央区の晴海、月島、佃、勝どき地区を主とした地域の人々に対して、音楽を中心とした芸術活動ならびに地域活動を行うことにより、わが国の文化、芸術の発展に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の活動を行なう。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 文化及び芸術の振興を図る活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として次の事業を行う。

- (1) 自主企画公演事業
- (2) コンサート出前事業
- (3) アウトリーチプログラム事業
- (4) 若手演奏家支援事業
- (5) 前各号の事業を行うために必要な外国人の招へい
- (6) 文化ボランティア拠点づくり事業
- (7) 評価事業
- (8) その他目的を達成するための事業

第2章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下、「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体

(2) 特別会員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

(入会)

第7条 正会員又は特別会員の入会について、特に条件は定めない。

2 正会員又は特別会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。

3 理事長は、前項の申込があったときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

4 理事長は、第2項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(会費)

第8条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(退会)

第9条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

2 会員が次の各号の一に該当するときは、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。

(2) 継続して会費を2年以上滞納したとき。

(除名)

第10条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) この定款等に違反したとき。

(2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(3) 前各号に準じる行為があったとき。

(抛出金品の不返還)

第11条 既納の会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第3章 役員

(種別)

第12条 この法人に次の役員を置く。

(1) 理事 3人以上10人以内

(2) 監事 2人以内

2 理事のうち、1人を理事長とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長は、理事会において理事が互選する。

3 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

4 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員ならびにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

(職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を統括する。

2 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。また、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事の中から理事長があらかじめ指定した者がその職務を代行する。

3 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期等)

第15条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。ただし、総会において、その役員に対し、議決前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反、その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第4章 総会

(種別)

第19条 この法人の総会は、通常総会と臨時総会とする。

(構成)

第20条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第21条 総会は、次の事項を議決する。

(1) 定款の変更

(2) 解散及び合併

(3) 事業報告及び収支決算

(4) 役員の選任又は解任、報酬及び職務に関する事項

(5) 会費の額

(6) 長期借入金その他新たな義務の負担及び権利の放棄

(7) その他運営に関する重要事項

(開催)

第22条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。

(2) 正会員総数の5分の1以上から、会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 第14条第3項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第23条 総会は、理事長が招集する。ただし、前条第2項第3号の規定による場合は、監事が招集する。

2 理事長は、前条第2項第2号の規定による請求があった場合は、その日から30日以内に臨時総会を開かなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第24条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第25条 総会は、正会員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第26条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款で定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権)

第27条 各正会員の表決権は平等なものとする。

2 総会に出席しない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条の適用については、出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その決議に加わることができない。

(議事録)

第28条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員の現在数

(3) 出席した正会員の数(書面表決者、表決委任者については、その旨を明記すること)

(4) 審議事項及び議決事項

(5) 議事の経過の概要及び議決の結果

(6) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び出席した正会員のうちからその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

第5章 理事会

(構成)

第29条 理事会は、理事をもって構成する。

2 監事は、理事会に出席し、意見を述べることができる。

(権能)

第30条 理事会は、この定款に定めるものの他、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他、総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(開催)

第31条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から、会議の目的である事項を記載した書面によって招集の請求があったとき。

(招集)

第32条 理事会は理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第33条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第34条 理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によって、あらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権)

第35条 各理事の表決権は平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条の適用については、出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事員は、その決議に加わることができない。

(議事録)

第36条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事の現在数
- (3) 出席した理事の数（書面表決者については、その旨を明記すること）

- (4) 審議事項及び議決事項
- (5) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人1人以上が署名、押印しなければならない。

第6章 資産、会計及び事業計画

(構成)

第37条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(資産の区分)

第38条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

(資産の管理)

第39条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(経費の支弁)

第40条 この法人の経費は、資産をもって支弁する。

(会計の原則)

第41条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

(会計の区分)

第42条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計とする。

(事業計画及び収支予算)

第43条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、理事会の承認を得なければならない。これを変更する場合も同様とする。

(予備費の設定及び使用)

第44条 前条に規定する予算には、予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 第43条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告書及び決算)

第46条 理事長は、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、事業報告書、財産目録、貸借対照表、収支決算書を作成し、監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

(長期借入金)

第47条 この法人が資金の借入をしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、総会の議決を経なければならない。

(事業年度)

第48条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第7章 事務局

(設置)

第49条 この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局には、事務局長その他の職員を置く。

3 事務局の職員は、理事長が任免する。

(書類及び帳簿の備置)

第50条 事務所には、特定非営利活動促進法第28条に規定される書類のほか、次に掲げる書類を常に備えておかななければならない。

(1) 会員名簿及び会員の異動に関する書類

(2) 収入、支出に関する帳簿及び証拠書類

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の過半数の議決を経なければならない。ただし、可否同数のときは議長が決するところによる。また、

変更内容については法第25条第3項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、総会において出席した正会員の3分の2以上の議決を経なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第53条 この法人が合併又は破産以外の事由により解散したときに残存する財産は、総会において出席した正会員の過半数の議決を経て選定された、特定非営利活動法人、社団法人、財団法人、国又は地方公共団体に譲渡する。

第9章 雑則

(公告の方法)

第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

(委任)

第55条 この定款の施行について必要な事項は、総会の議決を経て、理事長がこれを定める。

平成13年 5月 1日施行

平成13年12月17日変更

平成21年 6月25日変更